



滋賀県糖尿病協会
事務局

〒522-8539 滋賀県彦根市八坂町1882
彦根市立病院 栄養治療室内
<http://www.dmsliga.jp/>



滋賀県糖尿病協会

50周年のあゆみ

50th Anniversary Book 1971-2021



滋賀県糖尿病協会 50周年のあゆみ

Shiga Diabetes Association
50th Anniversary Book 1971-2021

〔表紙の写真〕

春 彦根市 彦根城石垣の桜

夏 多賀町 多賀大社の万灯祭

秋 東近江市 東光寺の紅葉

冬 多賀町 胡宮神社の雪化粧

撮影:元彦根市立病院 小財郁男氏

ご挨拶

滋賀県糖尿病協会 会 長 岡本元純	2
滋賀県糖尿病協会 副会長 矢野秀樹	3

ご祝辞

公益社団法人 日本糖尿病教会 理事長 清野裕	4
滋賀県知事 三日月大造	5
一般社団法人 滋賀県医師会 会長 越智眞一	6
滋賀県健康医療福祉部 参与 吉川隆一	7
社会医療法人 誠光会 会長 柏木厚典	8
滋賀医科大学医学部附属病院 教授 前川聡	9
元大津赤十字病院 内科部長 森田昂	10
元滋賀県立成人病センター 第一内科部長 森本昌親	11

友の会 会員メッセージ

甲賀会 元会長 森口憲司	12
ながら会 K M	13
彦根みずうみの会 久木康裕	14

滋賀県糖尿病ウォークラリー	15
滋賀糖尿病療養指導士育成事業について	20
第51回 日本糖尿病協会近畿地方会	22
平成29年度 糖尿病予防キャンペーン 西日本地区 in 滋賀	23

滋賀県糖尿病協会 友の会

マップ・一覧	24
湖西糖友会	26
ながら会（長等会）.....	27
カトレア会	28
打出糖友会	29
瀬田サルビア会	30
月輪会	31
滋賀さざなみ会	32
甲賀会	33
よし笛糖友会	34
ゆきの会	35
いきいき会	36
彦根みずうみの会	37

滋賀県医師会糖尿病実態調査の 取り組みについて	38
----------------------------------	----

With コロナ時代の糖尿病管理	40
------------------------	----

滋賀県糖尿病協会の歩み	41
-------------------	----

滋賀県糖尿病協会 会則	42
-------------------	----

編集後記・奥付	44
---------------	----

この度、滋賀県糖尿病協会(日本糖尿病協会滋賀県支部)の創立50周年を迎えることができましたことを、誠に喜ばしく思います。今日までの発展の礎を築いて戴いた多くの方々に敬意を表するとともに、現在、当会や各患者会の運営を支えて戴いている、滋賀県糖尿病協会の役員の方々、事務局を担当していただいている小野由美管理栄養士(彦根市立病院栄養治療室)をはじめ、多くの方々に感謝とお礼を申し上げます。

また、50周年を記念して本誌を発刊するにあたり、滋賀県知事三日月大造様、日本糖尿病協会理事長清野裕先生、滋賀県医師会会長越智眞一先生他、多くの先生方からご祝辞を賜り厚くお礼申し上げます。

現在は多くの方々の活動により支えられ、その活動の記録は本誌にも掲載されていると思いますが、初期の頃の活動の記録を残している施設は少ないようです。その頃の記録が散逸し忘れられることの無いよう、平成6年(1994年)に刊行された「近畿の糖尿病協会」などの資料を参考に、下記にまとめました。

最後に、糖尿病患者のより良い療養生活の支援のために、また、一般市民の糖尿病予防のために、当協会がますます発展するよう引き続き皆さまのご協力とご支援をお願い致しまして、ご挨拶とさせていただきます。

「滋賀県糖尿病協会の歴史」

近畿地区は糖尿病協会の活動が活発なところで、特に隣の京都は日本糖尿病協会の創立(1961年)より先に京都大学と京都府立医科大学の患者会が合同で、京都糖尿病協会が創立(1960年)されたほどである。しかし、滋賀県での取り組みはやや遅れていた。

昭和45年(1970年)5月、田代扶、田中弘行、森田昂先生らの指導により大津赤十字病院に「ながら会」が創立された。昭和46年4月大津市民病院(当時)に葛谷寛元先生が病院長として赴任され、同年9月「打出糖友会」を結成して、先に発足していた「ながら会」と共に日本糖尿病協会に加入し、ここに滋賀県糖尿病協会が創立した。事務局は大津市民病院におかれた。少し遅れて昭和55年(1980年)8月滋賀医科大学第3内科(当時)に「月輪会」、昭和59年(1984年)2月滋賀県立成人病センター(当時)に「さざなみ会」、昭和62年(1987年)10月市立長浜病院に「いぶき会」が誕生した。

平成6年(1994年)9月に発刊された「近畿の糖尿病協会」には、上記の5つの他に「カトレア会」(大高医院)、「甲賀会」(公立甲賀病院)、「いきいき会」(榎田医院)と、全部で8つの会の活動が記録されている。平成13年(2001年)に日本糖尿病協会により刊行された「全国われら友の会」には、さらに「瀬田サルビア会」(瀬田クリニック)、「にしおおじ会」(西大路クリニック)、「ゆきの会」(弓削メディカルクリニック)、「よし笛糖友会」(久我内科医院)が追加され、12の会が記録されている。現在は、「彦根みずうみの会」(彦根市立病院)、「湖西糖友会」(大津赤十字志賀病院)が追加されたが

2つの会の解散があり、12の会が活動している。

当初から、会長は指導医ではなく、患者の中から選出されていた。初代は中山忠太郎氏(ながら会会長)で、2代目坂口正弥氏(打出糖友会会長)、3代目村岸勇治氏(月輪会会長)、4代目小林昭史氏(ながら会会長)と続いたが、市民への啓発活動のためのイベントの主催や、近畿支部や東京本部での会合など、業務が煩雑・多岐になるに伴い、患者代表では業務遂行が困難となり、日本糖尿病協会からの要請もあり、滋賀県糖尿病協会の役員が合議の上で、平成20年8月21日より岡本元純が引き継いだ。なお、患者代表として滋賀県支部長を5代 榎長和代氏(ながら会会長)、令和2年(2020年)から久木康裕氏(彦根みずうみの会会長)に努めていただいている。

患者や市民への啓発活動は、ごく初期から「糖尿病予防のつどい」が実施された。当初は、糖尿病患者を対象に、「糖尿病教室」として、「糖尿病予防教室フォローのつどい」とともに、糖尿病専門医と大津市医師会、大津市が協力して実施されていたが、間もなく、一般市民を対象とした「糖尿病週間のつどい」にかわり、滋賀県糖尿病協会も含め5組織が参画した。その後、日本糖尿病協会の指導もあり、「糖尿病予防のつどい」となり、7組織の共催となった。平成元年(1989年)より、「大津健康フェスティバル」が開始され、大津市や大津市医師会がそちらを主体とするようになり、平成5年(1993年)第21回を最後に、「糖尿病予防のつどい」が休止された。しかし、その後5疾病5事業に糖尿病が含まれるなど時代の要請もあり、「大津健康フェスティバル」担当部署と大津市医師会の了解・合意を得て、平成23年(2011年)に第22回として、滋賀県糖尿病協会が主体となって、「大津健康フェスティバル」内の1ブースとして再開された。なお、「つどい」は、実行委員会の名簿や規約を見ると、当初よりひらがなである。

事務局は当初より大津市民病院にあったが、平成26年(2014年)より、彦根市立病院に移すともに、患者や市民に対する啓発活動として、ウォークラリーや糖尿病予防のつどいなどを毎年開催し、さらなる発展を続けている。また、患者や市民への啓発活動だけでなく、糖尿病療養を支援するスタッフの育成を目的としてCDE滋賀(糖尿病療養指導士)認定委員会を平成26年(2014年)に設立し、同年度からCDE滋賀認定講習会の開催、認定試験の実施を行っている。2017年CDE滋賀認定委員会の事務局を彦根市立病院から琵琶湖大橋病院に移し、県全体の講習会に加えて滋賀県を6ブロックに分け、各ブロックでも講習会を実施している。

滋賀県糖尿病協会
会長
岡本 元純



創立50周年誌発刊にあたって

滋賀県糖尿病協会(日本糖尿病協会滋賀県支部)が創立50周年を迎えるにあたって、この記念誌を発刊することとなりました。糖尿病協会の活動として、病院、診療所で友の会活動を個別に続けられていたところがありましたが、他病院との合同・連携活動は2014年までしばらく休眠状態にありました。彦根市立病院で言いますと、医師、および日本糖尿病療養指導士(CDEJ)の資格を持つメディカルスタッフとともに、病院単独で市民向け糖尿病教室や市民公開講座などを開催していました。2009年から11月14日世界糖尿病デーの彦根城ブルーライトアップを彦根市の協力のもとで開始し、今年で13回目を迎えました。また、彦根市立病院単独でのウォークラリーを2013年から開始していました。

2013年に日本糖尿病協会から、日本糖尿病療養指導士(CDEJ)とは別に、地域糖尿病療養指導士(CDE-L)の立ち上げを依頼されました。CDEJは受験資格が厳しいためなかなか人数が増えませんでした。そのため、糖尿病療養指導にかかわる人材の継続的な研修による指導技術の底上げ、地域連携活動の強化をめざし、滋賀県版CDE-LとしてCDE滋賀の設立を目指しました。まず、滋賀県糖尿病協会事務局を大津市民病院から彦根市立病院栄養治療室に移動させ(山本卓也、茂山翔太管理栄養士を中心に立ち上げました。その後両名とも関西電力病院へ異動しましたが、その功績に感謝します。)、同時に、当院にも友の会“彦根みずうみの会”を設立しました。

2014年、滋賀県下の糖尿病専門医が在籍している病院に声をかけ、設立の趣旨を説明して、多くの糖尿病専門医、糖尿病看護認定看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床検査技師、行政等の賛同を得て、CDE滋賀認定委員会を発足させました。年1回全体講習会を行い、試験を実施して5年ごとの更新制を導入しました。さらに、滋賀県の医療圏ごとに研修および地域活動拠点病院を中心に日本糖尿病協会の患者会と活動ができる体制づくりを支援しています。軌道に乗った2017年から、CDE滋賀の事務局を滋賀県糖尿病協会事務局から独立させ、医療法人弘英会琵琶湖大橋病院栄養科に移管しました。

2019年度までに年1回の全体講習会および認定試験を6回行い、延べ619名のCDE滋賀の資格者を認定することができました。

さらに、糖尿病週間の一環として彦根市立病院で始めたウォークラリーを滋賀県下の友の会を有する病院、診療所にも参加を呼びかけ、2015年に第1回滋賀県ウォークラリーを彦根市立病院が最初の当番として滋賀県立大学で行いました。その後、当番病院を輪番として、2016年第2回(希望ヶ丘:滋賀県立成人病センター(現滋賀県立総合病院))、2017年第3回(信楽:公立甲賀病院)、2018年第4回(大津浜公園:大津赤十字病院)、2019年第5回(長浜豊公園:長浜赤十字病院+長浜市立病院)と開催することができました。友の会の患者さんと一緒に運動するだけでなく、毎回約200名の参加者を集め、会員の交流を深める場ともなっています。2020年度は、COVID-19が猖獗を極めたため、CDE認定講習会や全県下のウォークラリーを残念ながら中止せざるを得ませんでした。2021年度も日本糖尿病協会の指示によりウォークラリーの開催はできませんでしたが、WEB方式でフォローアップセミナーやCDE滋賀認定講習会を開催しました。

論語に、三十にして立つ、四十にして惑わず、五十にして天命を知るとあります。つまり、30で基礎をしっかり作って自立し、40で迷わず行動し、50で「天が自分に与えた使命」のもとに考え行動するという意味です。糖尿病協会滋賀県支部が50周年を迎えたことにあたり、関係者の皆様のご尽力に感謝するとともに、“すべては糖尿病患者さんのために”を天命と受け止めて会員一同さらに一致団結して前進することを願って、私の挨拶とさせていただきます。

滋賀県糖尿病協会
副会長
矢野 秀樹



滋賀県糖尿病協会50周年 祝辞

公益社団法人 日本糖尿病協会
理事長

清野 裕



このたび、滋賀県糖尿病協会(日糖協滋賀県支部)が創立50周年を迎えられましたことに、日本糖尿病協会を代表して心よりお慶びとお祝いを申し上げます。歴代の会長様をはじめとする関係各位の永年にわたるご努力とご献身に対し、深く敬意を表します。

滋賀県糖尿病協会は、1970年初頭から患者教育の重要性に着目して活動を開始した大津赤十字病院の「ながら会」と、大津市民病院の「打出糖友会」という2つの患者会が日糖協に加入したことにより誕生されました。そして、患者さんとご家族の教育や親ぶくを図ることはもちろん、地域の糖尿病対策の担い手として、自治体や医師会と緊密な連携関係を築いてこられました。これは、現在の「糖尿病対策推進会議」の前身とも言える取り組みであり、早くから患者会の枠にとらわれず、ひろく滋賀県民全体の糖尿病予防と糖尿病患者さんの支援を目指された、滋賀県糖尿病協会関係者の皆さまの慧眼とご努力に改めて感服いたします。

近年の全国糖糖尿病週間や世界糖尿病デーの啓発行事を拝見しても、医師会や自治体等、関連団体との連携のもと、魅力あるイベントを多数開催されている様子から、長年に亘り、地域の信頼を獲得されている組織であることが伺えます。

また、地域の糖尿病医療の向上を目的とする滋賀糖尿病療養指導士の育成にも力を入れておられます。認定を受けた619人の療養指導士の皆さんが滋賀県糖尿病協会の啓発事業で活躍する様子は、患者さんと医療者が手を携えて糖尿病の抑制に取り組むという日本糖尿病協会の目的を体現した、素晴らしい姿であると言えます。

日本糖尿病協会が公益社団法人に移行し、各支部は都道府県糖尿病協会として独立しましたが、それぞれの裁量が拡大する県協会において、こうした滋賀県糖尿病協会の充実した活動は、他県のお手本として学ぶべき点が多々あるのではないかと考えます。

社会環境が変化する中、糖尿病に対する一般的知識も向上し、治療の進歩も目覚ましいものがありますが、依然として患者数は減少に転じてはおりません。そして、糖尿病をもつ人が、周囲の無理解により、いわれの無い偏見や不利益を被るという状況も解消されてはおりません。この状況を打破し、糖尿病患者さんが真の幸せライフを実現するためには、まだまだ皆さんのお力添えが必要です。これからも滋賀県糖尿病協会の強みを生かし、益々発展されることを心より祈念し、お祝いのことばとさせていただきます。

滋賀県糖尿病協会50周年 記念誌発刊にあたって

滋賀県知事

三日月 大造

公益財団法人滋賀県糖尿病協会が創立50周年を迎えられましたことを心よりお喜び申し上げます。

糖尿病患者会が病院内に創立され、その活動から滋賀県糖尿病協会が昭和46年に創立されて以来、今日に至るまで、糖尿病に関する正しい知識の普及啓発、糖尿病患者および家族の療養支援などを目的に、糖尿病患者会の活動、滋賀県糖尿病ウォークラリー事業や滋賀糖尿病療養指導士認定事業などに取り組まれ、本県の糖尿病対策に多大な貢献をさせていただいておりますことに、深く感謝の意を表します。

今般の新型コロナウイルス感染症にかかる重症化のリスク因子の一つとして糖尿病が指摘されており、患者および関係者の皆様が細心の注意を払って生活や診療等をされておられると推察いたします。是非、今後も継続して感染予防対策を行っていただきたいと思います。

さて、糖尿病は、生活習慣を改善し、適切な医療受診による良好な血糖コントロールの維持が出来ないと、長期にわたる高血糖によって網膜症・腎症・神経障害などの合併症を引き起こし、進行すると人工透析が必要になるなど生活に影響を与える病気です。平成28年の国民健康・栄養調査から、本県の糖尿病を強く疑われる人は約10万3千人であり、過去4年間で約4千人増加している状況です。

本県では、疾病管理の強化、療養指導体制の充実に向け平成23年度に「滋賀県糖尿病地域医療連携指針」を策定し、地域医療連携の推進に取り組んでまいりました。平成30年3月には、糖尿病性腎症重症化予防の取組を促進するため、滋賀県医師会・滋賀県糖尿病対策推進会議・滋賀県保険者協議会と県の4者で連携協定を締結し「滋賀県糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を策定しました。

また、糖尿病対策を効果的に進めるために、二次保健医療圏域ごとに「糖尿病地域医療連携推進会議」を開催し、各圏域の取組を受けて県全体の「滋賀県糖尿病ネットワーク推進会議」で、予防や重症化予防対策の効果的な取組につながるよう検討しています。

県民が、自分らしい生活を営むことが出来るよう、治療や療養に係る連携をより深めてまいりますので、一層のご理解とお力添えをよろしくお願いいたします。

貴会におかれましては、設立50周年という記念すべき年を契機に、これまで築き上げてこられた歴史と実績を礎に更なる飛躍を遂げ、糖尿病の啓発、治療や療養支援などの活動を展開いただきますことを期待しております。

結びに当たり、貴会の今後益々のご発展と皆様方のご活躍を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

滋賀県糖尿病協会50周年

一般社団法人 滋賀県医師会
会長

越智 眞一



滋賀県糖尿病協会が創立50周年を迎えられましたこと
に対し、滋賀県医師会を代表しお祝いを申し上げます。

滋賀県糖尿病協会は1971(昭和46年)年9月の創立以来、
糖尿病予防、および治療に関する普及啓発などさまざまな
活動により、県民の健康増進に大きく貢献されております。
これらの活動を支えてこられた歴代の役員の先生方なら
びに会員の方々の並々ならぬご尽力に対しまして、深く敬
意を表しますとともに、このたび創立50周年を迎えられま
したことを心よりお慶び申し上げます。

滋賀県糖尿病協会は、日本糖尿病協会の滋賀県支部とし
て、糖尿病患者とその家族、医師、看護師等コメディカル
を含めた会員数890名の大きな団体であり、その特性を活
かし、半世紀にわたり糖尿病の療養支援活動を行うととも
に、本協会の活動に賛同される多くの県民や企業の協力を
得られ、糖尿病の予防と治療に関する正しい知識の普及啓
発など、これまでの地道な活動は多大な成果を上げておら
れます。

一方、生活習慣の変化に伴い、糖尿病患者やその予備群
が増加の一途をたどっている現状があり、こうした現状か

ら糖尿病患者や予備軍の減少に向け、糖尿病診療に携わる
多職種間の連携によって、早期診断、早期治療、さらには予
防のために、滋賀県医師会では滋賀県糖尿病協会、日本糖
尿病学会近畿(滋賀)支部、滋賀県歯科医師会とともに「滋
賀県糖尿病対策推進会議」を立ち上げ、関係団体とともに
糖尿病対策推進活動に取り組んでまいりました。

滋賀県医師会としても、滋賀県糖尿病協会の創立50周年
を大きな節目として、ともに滋賀県における糖尿病をめぐ
る医療環境の向上をめざし尽力していきたいと考えてお
ります。

ここに改めまして、滋賀県糖尿病協会の今後ますますの
ご発展と、会員の皆様方のご健勝、ご活躍を心から祈念い
たします。

滋賀県糖尿病協会創立50周年に寄せて

滋賀県健康医療福祉部 参与

吉川 隆一



このたび滋賀県糖尿病協会が創立50年を迎えられたこ
とに心からお慶び申し上げます。50年前となると1971年
ですが、日本糖尿病協会が創立されたのが1961年ですの
で、その10年後になります。おそらくそれより以前から病
院ごとに糖尿病友の会などの組織が存在し、活動されてい
たと存じます。中でも大津市民病院院長の故葛谷覚元先生
が糖尿病患者さんの教育活動で先駆的な役割を果たして
おられたことを記憶しております。

今年も11月14日“世界糖尿病デー”には世界各地がブ
ルーに照らされましたが、今年は特に記憶されるべき年と
なります。11月14日はインスリンを発見してノーベル賞
を授与されたカナダの医師フレデリック・バンティングの
誕生日を記念して決められたそうですが、インスリンの発
見された年が1921年、つまり丁度100年前です。当時は「死
の病」と恐れられていた「糖尿病」に罹患された患者さん
の多くがインスリンによって命を救われました。2年後の
1923年にノーベル賞が授与されたのは当然のことですし、
100年後の現在もインスリンは強力な血糖降下作用を有す
る薬剤として多くの糖尿病患者さんの命を救っております。

2021年現在、世界中が新型コロナウイルス感染症に悩まされてい
る異常な状態にあり、様々な分野で会合を開くことが困難
となっております。そのためインターネットを利用した
WEB会議やオンラインでの意見交換、情報共有が盛んに行
われるようになりました。政府が提唱している「デジタ
ル社会の確立」が、皮肉なことに予期せぬ感染症のまん延で、
実現化へ向かっているようにも思えます。高齢者には馴染
みがたい動きですが、複雑化した現代社会においては避け
ては通れない道と思われます。糖尿病患者さんでは認知機
能の低下や虚弱(フレイル)状態が生じることが知られて
いますが、人と人のつながりが断たれる恐れのある現状は
こうした状態を悪化させる極めて心配な事態です。糖尿病
協会や糖尿病友の会などの活動がまさに望まれている現
状ではないかと思われます。

御協会におかれましても、こうした状況の中で新たな課
題解決に向け努力され、糖尿病患者さんのための活動を向
上させていかれるよう期待しております。

わが国糖尿病医療100年の進歩と 残された課題を考える

社会医療法人 誠光会
会長

柏木 厚典

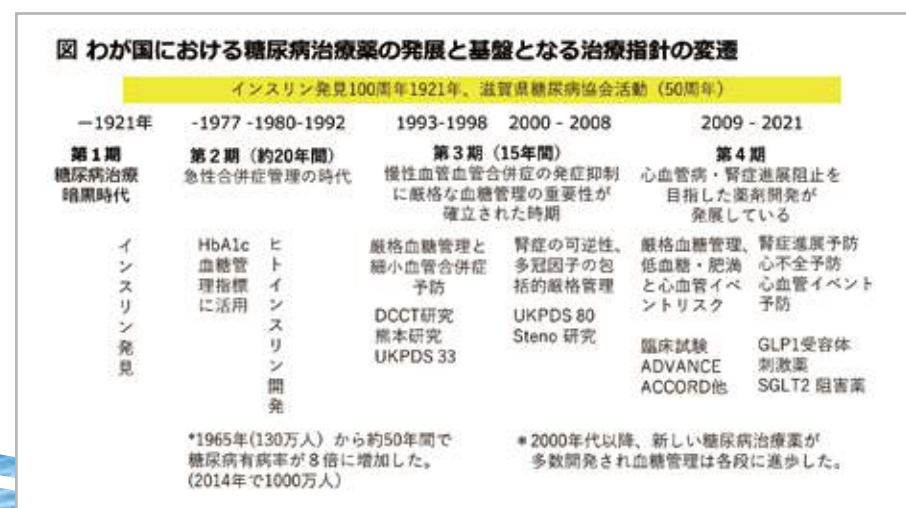


滋賀県糖尿病協会創立50周年を迎え、その活動の維持発展にご努力を戴きました、多くの関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、1960年以後私が医学部を卒業した1971年頃までの約10年間は高度経済成長期で、車の保有台数が急増し、食生活では欧米型に大きく変貌致し、その結果、糖尿病の有病率は1965年から約50年間で約8倍に増加しています。この糖尿病患者の増加は、生活習慣の変貌に伴うメタボ型内臓肥満の増加と人口の高齢化が大きな要因となり、わが国における“国民病といわれた結核”から約50年の経過で“糖尿病が急増した”ことになり、現在肥満・糖尿病は世界的な健康上の脅威となっています。

糖尿病治療の変遷をたどってみますと(下図)、今年はインスリン発見後100年を経過し、わが国でも1型糖尿病の治療は“不治の病”から一変致しました。それまでの時代(第1期)は糖尿病治療の暗黒の時代といえます。しかし、次の1921～1992年頃(第2期)までの糖尿病治療薬はスルフォニル尿素薬とインスリンで、しかも糖尿病性細小血管合併症の予防に関する血糖管理の意義が明確でなく、糖尿病治療は“糖尿病急性合併症予防の時代”と表現できます。1993年に発表されたDCCT(The Diabetes Control and Complications Trial) 研究により、1型糖尿病患者の厳格な

血糖管理が糖尿病性細小血管合併症の発症予防に有効であり、Steno研究による包括的リスク管理の重要性、細小血管合併症の可逆性が明らかになりました。この時期は第3期として“慢性血管合併症阻止の治療戦略が確立された時代”と位置付けられ、細小血管合併症の治療が飛躍的に進歩した時代であります。更に2009年以後、“心腎合併症予防に有効な薬剤としてSGLT2阻害薬、GLP-1受容体作動薬が開発”され、糖尿病治療は更に大きく発展しています(第4期)。これら糖尿病治療の発展の結果、欧米、我国共に細小血管合併症、心筋梗塞や脳梗塞による死亡率は最近20年間で約40～60%減少していると報告されています。しかし、現在でも①糖尿病患者さんの約25%が未治療となっていて、治療中断者の問題、②糖尿病専門医:患者間で理想的な糖尿病治療への説明・同意の欠如による、医師側の治療不十分、患者側の治療の順守ができないなどの問題から、国内外ともに血糖管理目標値未達成の症例が約50%に達しています。糖尿病治療の“コツ”はできるだけ早期から食事・運動に気を付け、理想体重の10%までを上限として体重維持をし、血糖、血圧、脂質管理目標値を達成することです。これら目標達成に今後の滋賀県糖尿病療養指導士の活動が大きく貢献されることを期待しています。



滋賀県糖尿病協会50周年にあたって

滋賀医科大学医学部附属病院
糖尿病内分泌内科 教授

前川 聡



裕先生の「世界糖尿病デー特別講演」を企画いただき、大変好評で、感謝しております。

滋賀県糖尿病協会の役員をはじめ、多くのメディカルスタッフや患者さんの参画なくして、このような活動は継続できません。まさに継続は力です。これからも、滋賀県糖尿病協会が糖尿病学会と両輪となって活動を継続していくことを祈念しています。

滋賀県糖尿病協会50周年本当におめでとうございます。

私にとって思い出深いのは、平成27年11月14日の世界糖尿病デーに、第52回日本糖尿病学会近畿地方会の会長を担当した際に、第51回日本糖尿病協会近畿地方会を滋賀県糖尿病協会が中心となって開催して頂きました。特に市民公開講座では、テツandトモの「お笑い健康トーク」と清野



ながら会回想

元大津赤十字病院
内科部長

森田 昂



滋賀県糖尿病協会50周年を御慶祝申し上げます。岡本会長の依頼状に前会長小林昭史氏の名を見て往時が懐かしくなり、僭越ですが協会設立当初の大津赤十字病院ながら会の発足を偲んで責を果たそうと存じます。四半世紀前に総合内科医を志して離島に渡り、当時の資料をほとんど失って記憶に頼るばかりなので、ご寛容のほどお願いいたします。

大津赤十字に糖尿病友の会を作ろうとされたのは故田中弘行先生でした。温厚篤実な先輩で、諸般のご指導を受け、散策のとき中川一政、熊谷守一の絵画を熱心に話されたのが心に残ります。田代扶先生は新しい医学知識に造詣が深く、3人で友の会名を“ながら会”としました。病院の地名に「…しながら」をかけたのです。患者さんは中山忠太郎氏、粟田茂一氏、宮嶋真澄氏らが中心でした。京都糖尿病協会重鎮の榊田博先生が発会祝典の講演をされたと思うのですが、機知溢れる話術に長けた先生で、食品交換表の刊行に携われ、「糖尿病¹²の¹人の⁵御飯は…」と語呂合わせで単位数を憶えるよう指導されました。

その後は主に県成人病センターの森本昌親先生を招いて私とほぼ交互に例会で話をさせてもらったのですが、好

きこそ物の上手なれ、という言葉どおりの森本先生が話好きで話上手でした。食事指導の詳細は栄養科の森田英子課長にお願いしました。発会当初は運動療法と称して度々懇親ハイキングを企画し、瑠璃溪を中西保重夫妻と語り歩いた事など楽しく思い出されます。

やがて滋賀医科大学関連教育病院にもなり、のちに医大学長を務められた吉川先生や柏木先生らと予防のついで懇意になって、Ⅰ型糖尿病という重箱読みを吉川先生に教わりました。この50年間、私の在任中にはノボペンの開発、血糖自己測定の普及があり、以後諸種新薬の開発も進んでいます。まだⅠ型糖尿病の方々の生活はご負担が多いと思いますが、Ⅱ型は日本人でもやはり体脂肪過多の方が多いいと思いますが、新型コロナウイルス感染の重症は糖尿病の肥満男性が大部分とのことで、改めて重大さを思い知りました。

大津赤十字病院の後任には京都大学から、すべてに秀でた岡本元純先生に来て頂く幸運を得ました。日本の内分泌学をリードされた元京大総長の井村裕夫先生は滋賀県のご出身です。協会の皆様が誇り高くお仕事に励まれることを希って拙文を終わらせて頂きます。

思い出すままに

元滋賀県立成人病センター(現 滋賀県立総合病院)
健康管理局長 兼 第一内科部長

森本 昌親



滋賀県糖尿病協会50周年おめでとうございます。且つて協会の設立準備にたずさわった一員として感慨深いものがあります。また延々50年に亘って協会を支え育ててこられた会員および指導者の方々に敬意を表します。

私は、滋賀県としては、滋賀医大に次いで2人目に、糖尿病学会・糖尿病協会の近畿地方会の世話人*を担当させてもらいましたので、その時の思い出話をさせてもらいます。まず会場の設定ですが、滋賀県の方が担当しても京都市で開催されることがおあったのですが、是非滋賀県内でやろうと努力しました。結局何ヶ所かに分散せざるを得ませんでした。大津という街を身近に知ってもらうには良かったかと思います。

次に会場の展示ですが、協会部門で「1単位の間食」展示をしました。糖尿病になると「食事は腹一パイ食べられないし、おやつも食べられない」と嘆く患者さんが少なくありませんでした。糖尿病の治療の基礎が食事療法にあるとは言え、患者さんにひもじい想いをさせるのが糖尿病治療ではありません。人生において食べることは何より大事です。むしろ「食事療法」を受けるからこそ、一定の範囲内で食事を楽しむことが大切だと思います。間食も1日総カロリーの範囲内で楽しむべきです。そこで「1単位で楽しむ

間食」の実物見本を会場に展示していただきました。県下の栄養士さん、看護師さん達の工夫と努力で「これも1単位で収めるのか」と思われるような、ボリュームもあるおいしいような「おやつ」が沢山テーブルに並びました。当日の学会場で一番賑やかな会場になりました。このコーナーは患者さんと栄養士さんの間を近づける上でも役にたったと思います。

残念ながら糖尿病は今も「不治の病」です。誰かに直してもらおう病気ではない。あばれ馬を飼っているつもりで、自身の生活管理で血糖の波をできるだけ正常化させる病気です。つらい時もあると思いますが、「しめじ」を背負いこまされることがないように、日々の生活を大切にしてください。

蛇足ながら、私が勤務していた成人病センターの患者会は「さざなみ会」といいます。血糖の波が大きくなならないよう、おだやかな日の琵琶湖の湖面のように「さざなみ」で収まってくれるようにという願いを込めたものです。糖尿病を持った人たちの血糖値が、いつもおだやかな「さざなみ」であることを祈って50周年のお祝いの言葉にかえさせていただきます。

※近畿地方会では当時、「地方会会長」の事を「世話人」と称していました。

甲賀会会長6年間の体験記

甲賀会 元会長
森口 憲司滋賀県糖尿病ウォークラリー
バス内で5回連続皆勤賞の
表彰状授与式

公立甲賀病院の甲賀会会長に就任して6年間、私の記憶に残っている体験したことについて少し述べてみたいと思います。

まずは京都国際会館で開催された日本糖尿病協会近畿地方会のイベントに参加した事です。

目的は糖尿病治療に対する知識の向上が主な目的でありました。このイベントではヘモグロビンA1cと血糖値の測定、並びに食事療法、運動療法、フットケアのレクチャーを受けて参りました。

次に京都平安神宮西隣のロームシアター京都で開催された「ヘモグロビン・エー・ワンシー(HbA1c)認知向

上運動2016」に参加した事です。目的は女優の藤山直美さんの母親に対する糖尿病ケアの体験談のスピーチと、日本糖尿病協会役員との懇談の様子を聴講させて頂いた事です。このイベントでの昼休みの時間に、平安神宮から南禅寺まで疎水に沿って約40分程度のウォーキングをしました。南禅寺の楼門では日陰があり、初夏ではありましたが、非常に涼しく快適な短時間を過ごす事ができました。

それから2019年11月9日に大阪国際会議場グランキューブ大阪にて開催された日本糖尿病協会近畿地方会のイベントにおきまして、滋賀県代

表として糖尿病治療体験談のスピーチをさせて頂いた事です。このスピーチにおきましては、制限時間10分間を厳守してほしい旨連絡があり、制限時間をクリアするのに苦労致しました。

また、この6年間の間に大津日赤病院の糖尿病患者会の会長さんとも昵懇にさせて頂き、見聞が広がった事も、自分にとってはポジティブ志向になっている事は確かであります。

最後に何より楽しかったことは、年一回甲賀会会員の皆様と公立甲賀病院の医療スタッフの方々と観光バスで出かける遠征ウォークラリーに参加した事です。これにより甲賀会会員の皆様と公立甲賀病院医療スタッフの方々との距離感が近くなり、親しみが感じられるようになりました。

以上記憶に残っている体験した事を述べさせて頂きました。

2021年3月末日でもって甲賀会会長を退任致しましたが、会員皆様のご健勝と、会員同士の意見交換や情報交換など、糖尿病とうまく付き合っていただけのような充実した活動を祈念して止みません。今後とも甲賀会イベントには積極的に参加活動する所存であります。ありがとうございました。

私の体験記

ながら会
KM第16回リリーインスリン50年賞受賞
(2018年)左から2人目

滋賀県糖尿病協会50周年おめでとうございます。長期継続出来たのは医療関係者の方々の努力の賜物と思います。

私が発症から大凡60年経過しても年相応の生活が出来ているのも、関わって頂いた方々の努力と医療機器の進化のお陰だと思います。

I型糖尿病を発症した私が、糖尿病協会に入会した切っ掛けは、20歳の時に高血糖昏睡状態で緊急入院した京都大学病院の「みどり会」でした。当時の私は患者会に入会する事などは思いつきませんでした。我が身を削って救命してもらった主治医の強い勧めであったため、断りきれない気持ちでの入会でした。会合に初参加して一番初めに感じたのは「年上の人ばかりで嫌だな」と感じま

した。この気持ちを主治医に伝えると、「もう少し我慢してな。その内に同年代の若い人達にも入ってもらうようにするからね」といった内容の会話だったと記憶しています。

みどり会の行事で京都滋賀の合同の一泊研修があり嫌々参加しました。この時に朝の検尿検査があり、当時はインスリン量は40単位までと決められていたので、私の検尿には糖が沢山出ていて、私がばつの悪い顔をしていたら主治医が透かす「あなたは血糖は出ていて当たり前やから大丈夫」と言ってフォローしてもらった事を鮮明に覚えています。この集いで多くの方達と心の交流が出来た事は人生の宝物となりました。

その後数年経過したある日突然「もう一人の父親」と思う程大きな存在になっていた主治医の急死という

事態に直面してしまいました。

この現実には私たち患者にはとても辛くて悲しい出来事でした。

その後結婚出産して大津市に転居しましたので、受診病院を大津赤十字病院に変更し、縁あって「大津赤十字ながら会」の会員となりました。

ながら会の定期行事としては、夏に医療関係者の講演会と総会、冬にはながら会の会員が、新年会を兼ねた外食研修をして下さっておりました(感染症で最近では中断)。栄養士の方からの食事内容の説明、その後自己紹介しつつの会食でした。終了後にインスリン治療されている方が私にそっと「ながら会に入会してあなたに会えて良かった」と言って下さるI型患者仲間の方々と出会う事が出来て心が和みました。ながら会という交流の場で出会えた方達に、私個人がある方の紹介で出会った、DMVOX(インスリン治療を行う患者の集い場所で、主に大阪で開催、イーライリリーが共催)の集いなどの情報伝達係的な役割をしながらDMVOXと一緒に参加して、私自身も近隣のI型仲間の方達との出会いを楽しんでいる今日この頃です。

このような出会いの場を提供してもらった事をとても嬉しく思います。



平成21年ながら会新年会

おじいちゃん 痩せたなあ
早く元気になって、一緒にご飯食べよう



孫のおかげです！！

糖尿病協会 近畿地方会 甲賀会

日本糖尿病協会近畿地方会「孫に励まされて」発表スライドより

体験記

彦根みずうみの会
久木 康裕

荒野に立つ

糖尿病を患って、早いもので20年近くなります。2003年ごろから、手足のしびれや目の充血が度々起こり、体の調子も良くなかったが、会社を経営していたので、何かと忙しく病院に行くことがなかった。しかし、ますます悪くなり、知人から2009年に彦根市立病院の矢野先生を紹介いただき、治療が始まった。その時へモグロビンA1cは、8を超えていた。

考えられる原因は、2000年から始まるデフレで会社の業績がじわじわと悪くなり、ストレスが溜まり、会合での会食、2次会の飲酒など不摂生が重なり、会社の業績と比例するように、悪化していった。2011年12月には左目の白内障の手術を受け、インスリン投薬を始めた。そのことで、会社経営や体のことを考え、会社を譲渡し退任することにした。2012年2月のことです。

しかし、これから何をしたらいいのか、迷っていたが、好きな写真を基本から勉強したくなり、成安造形大学に入学した。孫か子供と言うぐらい年が離れていたが、それがまた、新鮮で病気のことも忘れるぐらい楽しい時間を過ごした。そして、A1cは7台に改善したが、2013年の2月には、右目の白内障、2014年の8月は、下肢

静脈瘤の手術で入院した。その後、2016年3月に無事卒業し、翌年から、撮影旅行を始めた。2017年は、ベトナム3回、インド、国内は、宮崎、山陰など。2018年は、モンゴル2回、ベトナム2回、インドネシア、バングラデシュ、国内は北海道など。2019年は、ベトナム2回、ネパール、中国貴州省、バングラデシュなど、国内は石川県、熊本県など。2020年は、ベトナム、長野県、3月からの新型コロナウイルスにより、中断。

こんなことがあった。何回目かのベトナム撮影に妻と2人で行った時、インスリンを持っていくのを忘れ、ホーチミンの中央病院で探したが、

日本と同じ薬が無く、6日間食事をぐっと我慢したが、やはり数値はあがった。インスリンを忘れたことで、緊張の旅だった。

糖尿病は生活習慣病と言われていますが、規則正しい生活を送るには、現代社会は間食や飲酒など誘惑が多い。それで、あまり無理をせず、私は30勝1敗のつもりで生活をしようと思っています。現在A1cは6台をキープしています。それから、大事なことは彦根市立病院の先生、看護師さん、栄養士さんと出会えたことが改善につながる幸運なことでした。これからも、1日でも長く健康寿命で撮影に出かけられる日を願っています。



第64回彦根写真真連盟展

みんなで元気に 滋賀県糖尿病ウォークラリー

ウォークラリーの目的

糖尿病の療養生活において、食事療法と運動療法は治療の基本であり、両輪です。

ウォーキングを通して、運動療法の効果について体感し、その必要性について認識してもらうことができます。また、糖尿病患者会ごとの交流を通して、個々の療養生活の振り返りを行うことができます。

滋賀県糖尿病ウォークラリーのはじまり

糖尿病週間の一環として2013年から彦根市立病院で開催した「糖尿病ウォークラリー in彦根」を、2015年より全県規模に拡大して開催することになりました。

滋賀県内の各地域で当番病院を輪番として2019年までに第1回～第5回まで開催しました。

※第6回は新型コロナウイルス感染症まん延のため中止となりました。

第1回

日 時	2015年10月3日(土) 9:30～12:30
会 場	滋賀県立大学交流センター大ホール、敷地内コース
参加人数	糖尿病患者会入会中患者とその家族 74名 スタッフ 74名
担当病院	彦根市立病院
共 催	滋賀県糖尿病協会、滋賀県、彦根市健康推進課、テルモ(株) ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)、日本イーライリリー(株)
協 力	小野薬品工業(株)、興和創薬(株)、ひこね元気クラブ21
内 容	1. 受付、血糖・血圧測定 2. 開会式、準備運動 3. ウォーキングスタート チェックポイントで糖尿病クイズ 4. ゴール後血糖・血圧測定、健康チェック 5. ミニレクチャー「糖尿病と運動療法について」 滋賀県立大学人間文化学部生活栄養学科運動栄養学研究室 教授 中井直也先生 6. 閉会式 記念撮影(ひこにゃんタオルマフラーでブルーサークル) 健康弁当説明 7. 昼食、解散

健康弁当
～地産地消で野菜たっぷり～

エネルギー:553kcal 食塩:2.7g

- きのこの炊きおこわ
- ふんわり彩りだし巻き卵
- 豚肉の野菜巻焼きししとう添え
- なすのみそ和え
- 小松菜の磯辺和え
- カレー風ピクルス
- リンゴのコンポート



ウォークラリー スタート前



ひこにゃんタオルでブルーサークルを作って記念撮影！それ以降、毎回恒例となりました。

第2回

日 時	2016年10月15日(土) 9:30～12:30
会 場	滋賀県希望が丘文化公園、青年の城大ホール
参加人数	糖尿病患者会入会中患者とその家族 89名 ボランティアスタッフ 101名
担当病院	滋賀県立成人病センター(現 滋賀県立総合病院)
共 催	滋賀県糖尿病協会、滋賀県、ノボノルディスクファーマ(株)、 テルモ(株)、ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
内 容	1. 受付、血糖・血圧測定 2. 開会式、準備運動 3. ウォーキングスタート チェックポイントで糖尿病クイズ 4. ゴール後血糖・血圧測定、健康チェック 5. 特別講演「運動療法のよくある誤解～あなたの運動方法は大丈夫?～」 武田総合病院 健康運動指導士 黒瀬聖司先生 6. 閉会式 記念撮影 健康弁当配付 7. 昼食 解散



ブルーサークルで記念撮影



第3回

日 時	2017年10月15日(日) 9:30～12:30
会 場	滋賀県立陶芸の森
参加人数	糖尿病患者会入会中患者とその家族 96名 ボランティアスタッフ含む 119名
担当病院	公立甲賀病院
共 催	滋賀県糖尿病協会、滋賀県、ノボノルディスクファーマ(株)、 テルモ(株)、ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
協 力	甲賀市スポーツ推進委員、日本糖尿病財団・協会
救急対応	信楽中央病院、国立病院機構紫香楽病院、公立甲賀病院
内 容	1. 受付、血糖・血圧測定 2. 開会式 3. 準備体操「世界にひとつだけの体操」 4. ウォークラリー 記念写真撮影 5. ゴール後血糖・血圧測定、健康チェック、糖尿病クイズ 6. 閉会式 7. 昼食「大小屋」

滋賀県糖尿病ウォークラリー



準備体操「世界にひとつだけの体操」



第4回

日 時	2018年10月20日(土) 9:30～13:30
会 場	コラボ滋賀21 なぎさ公園
参加人数	糖尿病患者会入会中患者とその家族 86名 スタッフ 127名
担当病院	大津赤十字病院
共 催	滋賀県糖尿病協会、滋賀県、ノボノルディスクファーマ(株)、 テルモ(株)、ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
内 容	1. 受付、血糖血圧測定 2. 開会式、準備体操 3. ウォーキングスタート チェックポイントで糖尿病クイズ 4. ゴール後血糖・血圧測定、健康チェック 5. 昼食 6. 閉会式 7. 記念撮影



チェックポイントで糖尿病クイズ



野菜たっぷり! 秋の味覚弁当

第5回

日 時	2019年11月4日(土) 9:30～12:30
会 場	長浜文化芸術会館(長浜豊公園内)
参加人数	糖尿病患者会入会中患者とその家族 76名 ボランティアスタッフ含む 139名
担当病院	長浜赤十字病院
共 催	滋賀県糖尿病協会、滋賀県、ノボノルディスクファーマ(株)、 テルモ(株)、Lifescan Japan(株)
内 容	1. 受付、血糖血圧測定 2. 開会式、準備体操 3. ウォーキングスタート ※チェックポイントで糖尿病クイズ(雨天のみ) 4. ゴール後血糖・血圧測定、健康チェック 5. 昼食 6. 閉会式 7. 記念撮影



豊公園 長浜城歴史博物館



エネルギー:480kcal
炭水化物:68.0g 脂質:15.0g
蛋白質:20.0g 塩分:2.0g



滋賀糖尿病療養指導士育成事業について

滋賀糖尿病療養指導士認定委員会
事務局長

村松 典子



滋賀県糖尿病協会創立50周年を迎えるに当たり、滋賀糖尿病療養指導士認定委員会事務局より「滋賀糖尿病療養指導士育成事業の活動」についてご報告申し上げます。

滋賀県における糖尿病教育の正しい知識および技術の普及・啓発により、糖尿病患者の療養活動を支援し、健康と適切な日常生活を実現する医療スタッフの養成および認定を目的として、滋賀糖尿病療養指導士(CDE滋賀)は2014年4月に滋賀県糖尿病協会事務局のある彦根市立病院栄養治療室で設立されました。2017年4月からは事務局を医療法人弘英会琵琶湖大橋病院栄養科に移管して、これまでに6回の認定講習会を実施し、延べ619名の認定者を輩出しています。

設立に際し、滋賀県全域の糖尿病専門医、糖尿病看護認定看護師および日本糖尿病療養指導士(CDEJ)から役員を理事として任命し、認定・講習・試験・地区担当(大津・湖西、甲賀、湖南、東近江、湖東、湖北の6地区)の4つの委員会を構成して「CDE滋賀認定委員会」を発足させました。理事会では他地域のCDELの組織・運営方法を参考にCDE滋賀の対象者・認定までのスケジュール等について議論しました。その上で、医師会、歯科医師

会、看護協会等の職能団体や市・県の行政機関に向けて情報発信を行い、徐々に認定者を増やし現在に至ります。なお、CDE滋賀認定者は滋賀県糖尿病協会への入会を認定条件としています。また、CDEJは限定された職種、糖尿病学会専門医の存在、継続的な療養指導への従事という資格取得のハードルがあり、取得できない方が多くおられるため、そのような方々にCDE滋賀の認定取得を勧めています。

CDE滋賀の認定者は看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師だけでなく、保健師、助産師、歯科衛生士、介護支援専門員など幅広い職種、病院やクリニック、調剤薬局、介護事業所、介護施設など様々な施設で糖尿病患者に関わっている方まで多岐にわたります。

地域に密着した活動を展開するスタッフとして、CDEJおよび認定されたCDE滋賀が糖尿病地域連携を行い、糖尿病ウォークラリーや糖尿病患者会、県や市主催の講習会や料理教室のサポートスタッフとして活躍しています。

CDE滋賀認定者の推移(延べ認定者数)

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計
看護師・准看護師	54	40	46	60	51	37	288
保健師	1	2	1	2	3	3	12
助産師	0	1	0	1	0	0	2
管理栄養士・栄養士	29	31	17	22	21	23	143
薬剤師	4	18	4	11	16	11	64
理学療法士	2	10	9	7	2	6	36
臨床検査技師	7	8	5	3	4	0	27
歯科衛生士	3	4	3	1	4	4	19
視能訓練士	0	0	1	1	0	0	2
健康運動指導士	0	0	1	0	0	0	1
社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員	3	5	0	11	4	1	24
その他	0	0	0	1	0	0	1
計	103	119	87	120	105	85	619

また、認定者の資質向上および資格更新のため、『更新単位と取得のための研修会』として各医療圏内を中心に現在行われる研修会や各医療機関で行われる糖尿病教室、日本糖尿病療養指導士認定機構が認めた国内の研修会、学会等への参加でCDE滋賀の更新単位を認定しています。CDE滋賀の認定期間は5年間であり、5年間で30単位以上取得(うち月刊糖尿病ライフ「さかえ」の定期購読で20単位を付与)した者に対して認定更新を認めています。

昨年度はコロナ禍のためCDE滋賀認定事業および

フォローアップ事業の開催を中止していましたが、今年度はオンラインを活用してWeb方式にて5回のフォローアップセミナーの開催を予定しており、また12月5日にはCDE滋賀認定講習会の開催を企画し、準備を進めています。

今後、CDE滋賀認定者が各地域の医療・介護・福祉現場で活躍できる人材育成および環境整備を行うことが今後の課題と考え、CDE滋賀のますますの発展を期待しています。

Web開催 第29回CDE滋賀フォローアップWebセミナー
「1型糖尿病患者の苦悩とその支援」

日時 2021年 7月 31日 (土) 15:00~17:05
会場 キラリエ草津 草津市立市民総合交流センター 貸会議室303 (配信会場)
定員 約30名(申込み順) 定員になり次第締め切らせて頂きます
・日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位第2群 0.5単位取得可能 ※1
・滋賀糖尿病療養指導士(CDE滋賀)更新認定単位 1単位申請中
※1参加者が規定時間を満たしていることを確認する為、接続履歴を記録します。
また、主催者が発信したキーワード(計3回)を開催当日中に提出していただきます。

15:00 開会あいさつ 滋賀県糖尿病協会 会長 岡本 元純 先生 (大津赤十字志賀病院 院長)

15:05 講演 院長 公立甲賀病院 糖尿病・内分泌内科部長 大村 寧 先生
「糖尿病専門クリニックでの糖尿病治療と療養指導の工夫」
講師 澤木内科・糖尿病クリニック 院長 澤木 秀明 先生

16:00 休憩 Break time ☕

16:10 症例検討会(ワークショップ) 症例「1型糖尿病患者の生活を支える～夢の実現のためにできること～」
公立甲賀病院 糖尿病看護認定看護師 鶴飼 梨恵 先生

17:00 閉会あいさつ 滋賀県糖尿病協会 会長 岡本 元純 先生 (大津赤十字志賀病院 院長)

- Web開催にあたってのご連絡 -
Google社のWeb会議ツール「Google Meet」を使用します。参加される方は、**Googleアカウントの登録が必要**になります。
また、研修開始時・終了時・および研修途中1回以上の計3回以上、異なる「キーワード」を発信し、開催当日中にすべてのキーワードを正しく提出した受講者に対して、参加証を発行いたします。
詳細は別途ご案内いたします
共催 滋賀県糖尿病協会 ロシュDCジャパン株式会社

第29回CDE滋賀フォローアップWebセミナー



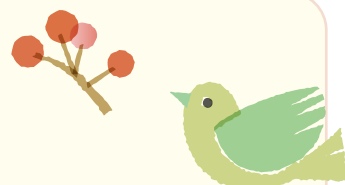


活動記録



第51回 日本糖尿病協会近畿地方会

会 期:平成27年(2015年)11月14日(土)
 会 場:国立京都国際会館 アネックスホール1
 協会世話人:岡本元純 日本糖尿病協会 滋賀県支部長



第1部

ブルーライトアップフォトコンテスト表彰式 患者交流会「体験発表会」

京都府支部、奈良県支部、和歌山県支部、
 滋賀県支部 滋賀県代表



フォトコンテスト最優秀賞(小財氏)

第2部

市民公開講座

健康お笑いライブ テツandトモ(テツ 滋賀県出身)

世界糖尿病デー特別講演

「国連決議から10年目を迎えた世界糖尿病デー」
 関西電力病院病院長/日本糖尿病協会理事長 清野裕先生

療養指導コーナー 血糖測定・栄養相談・生活相談

血糖測定コーナー

滋賀県内の糖尿病患者会を擁する多くの施設から医療スタッフが参集し、企画～当日の運営まで熱心に活動しました。当日は、多くの患者さんにご参加頂き、特別ゲスト(テツandトモ)や清野理事長からのご講演など盛りだくさんのプログラムで大盛況のうちに、会を終了することが出来ました。



活動記録



平成29年度 糖尿病予防キャンペーン西日本地区 in 滋賀

テーマ 糖尿病をもっと知ろうよ、みんなで描く一つの輪

日 程:平成29年(2017年)10月15日(日)12:30 ~ 15:30
 会 場:滋賀県立陶芸の森 信楽産業展示館
 内 容:各種展示・相談コーナー(医師・歯科医師・看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士等)

共 催:日本糖尿病財団、日本糖尿病協会、滋賀県糖尿病協会、公立甲賀病院
 後 援:厚生労働省、日本医師会、日本糖尿病学会、滋賀県、甲賀市、湖南市、滋賀県医師会、
 滋賀県歯科医師会、滋賀県看護協会、滋賀県薬剤師会、滋賀県理学療法士会、滋賀県栄養士会

開 会 宣 言 滋賀県糖尿病協会会長 岡本元純先生

理事長挨拶 日本糖尿病財団理事長 岩本安彦先生

基 調 講 演 「糖尿病の重症化予防に必要なこと」
 鹿児島大学糖尿病・内分泌内科学 西尾善彦先生

特別講演1 「糖尿病の食事療法 ～今日からできる工夫とコツ～」
 守山市民病院 管理栄養士 中村祥子先生

特別講演2 「患者さんのための足のお手入れ」
 市立長浜病院 看護師 東昌代先生

閉 会 挨 拶 滋賀医科大学内科講座糖尿病内分泌・腎臓内科 前川聡先生



午前中に滋賀県立陶芸の森において糖尿病ウォークラリーが開催され、同日の午後から糖尿病予防キャンペーン西日本地区in滋賀が開催されました。当日は強い雨の降る悪天候でしたが、400人の参加者で会場は満員となり、中には立ち見の方も出るほどの盛況ぶりでした。



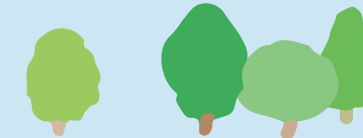
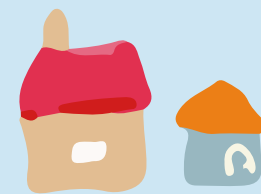
滋賀県糖尿病協会

友の会

Shiga Diabetes Association Club

滋賀県には「友の会」が12団体あり、糖尿病の患者さん、糖尿病に関心のある人、医療関係者など、どなたでも入会することができます。「友の会」では患者さんの生活を豊かにするために、独自に色々な企画をしています。ご自身のペースで参加していただき、暮らしのエッセンスにしてください。

活動内容は、勉強会、食事療法に基づく料理教室、患者さん同士の情報交換会、歩く会、旅行など様々です。もちろん、「糖尿病ライフさかえ」も毎月無料で読むことができます。



1 湖西糖友会

- 大津赤十字志賀病院
事務部会計課
- 〒520-0580
大津市和邇298
- 077-594-8777

2 ながら会

- 大津赤十字病院
栄養課内
- 〒520-0046
大津市長等一丁目1-35
- 077-522-4131

3 カトレア会

- 医療法人 大高医院内
- 〒520-0806
大津市打出浜6-7
- 077-524-3393

4 打出糖友会

- 市立大津市民病院
医療技術局栄養部内
- 〒520-0804
大津市本宮二丁目9-9
- 077-526-8146

5 瀬田サルビア会

- 医療法人社団
瀬田クリニック内
- 〒520-2153
大津市一里山三丁目1-5
- 077-545-3945

6 月輪会

- 滋賀医科大学医学部附属病院
内分泌代謝内科内
- 〒520-2192
大津市瀬田月輪町
- 077-548-2223

7 滋賀さざなみ会

- 滋賀県立総合病院
糖尿病内分泌科内
- 〒524-0022
守山市守山五丁目4-30
- 077-582-5031

8 甲賀会

- 公立甲賀病院
薬剤部内
- 〒528-0074
甲賀市水口町松尾1256
- 0748-62-0234

9 よし笛糖友会

- 医療法人社団
久我内科医院内
- 〒523-0891
近江八幡市鷹飼町545-4
- 0748-33-2680

10 ゆきの会

- 医療法人社団
弓削メディカルクリニック内
- 〒520-2501
蒲生郡竜王町弓削1825
- 0748-57-1141

11 いきいき会

- 医療法人 榊田医院内
- 〒527-0224
東近江市市原野町2225
- 0748-27-0062

12 彦根みずうみの会

- 彦根市立病院
栄養治療室内
- 〒522-8539
彦根市八坂町1882
- 0749-22-6340



湖西糖友会

大津赤十字志賀病院



当院は、平成14年7月1日に開院いたしました。周囲は緑豊かな環境に恵まれており、四季折々の景色や各階からは日本一の湖と知られる琵琶湖を眺めることができ、都会の病院では味わえない入院生活を送っていただけることと思います。

その中で、当院は平成16年2月に糖尿病友の会として湖西糖友会を設立し、現在まで活動して参りました。現在の会員は、医師、看護師、理学療法士、管理栄養士の医療スタッフと患者さまを含め7名となっています。ただ、コロナ禍のため、2年ほど前より活動自粛を余儀なくされました。現在、中止になっているものが、滋賀県全域で行われるウォークラリーの参加です。当院では、糖尿病患者さまを中心に会員外でも声かけし参加の促しを行っていました。また、

当院の外来待合所に「さかえ」の試し読みを設置し、待ち時間に患者さまに糖尿病についてさらに学んでいただける機会となっていました。現在のおもな活動は、糖尿病教育入院で湖西糖友会の医療スタッフ会員を中心に指導を行っています。当院にて独自のパンフレットを作成し、その中には、月刊誌「さかえ」の紹介を湖西糖友会の紹介も兼ねてしています。チームそれぞれの役割は、医師にて今後の患者さまそれぞれの治療方針を含めた糖尿病全体の知識について、看護師からは、血糖自己測定、フットケア、低血糖などの自己ケアについて指導を行っています。また、理学療法士からは日常生活でも取り入れやすく工夫された運動療法について、薬剤師からは、糖尿病治療で使用する薬剤について説明しています。管理栄養士からは、

五大栄養素についての基礎から入院中に食べる病院食を通して学んでいただき、日々の食事の重要性について話します。それぞれが役割を持ちながらチームとなって患者さまに関わっています。

令和元年に行われた厚生労働省「国民健康・栄養調査」によれば、「糖尿病が強く疑われる」人の割合は、男性19.7%、女性10.8%と平成21年以降もっとも高い数値となりました。特に近年増加傾向にあるⅡ型糖尿病は生活習慣の乱れが発症要因の1つだと考えられています。このような時代背景からも発症の予防、早期発見、合併症の予防は、医療従事者がチーム一丸となって関わるのが大切だと考えます。今後も当院では、湖西糖友会の医療スタッフを中心にチームで糖尿病患者さまに向き合っていける環境を作っていきたいと思います。



入会のご案内

- 患者会名 湖西糖友会
- 入会申込施設名 大津赤十字志賀病院
- 担当部署 事務部会計課
- 電話番号 077-594-8777

大津赤十字志賀病院は糖尿病友の会「湖西糖友会」を糖尿病の治療や予防に関する正しい知識と会員同士の親睦を図ることを目的に活動しています。ご興味がある方は、事務部会計課077-594-8777までご連絡ください。

ながら会(長等会)

大津赤十字病院



ながら会は大津赤十字病院に通院する患者と医師・栄養士・看護師などの病院職員が会員となっています。当会は昭和45年5月16日に設立され、今年51周年を迎えました。すぐ隣の京都市で活発な活動が行われている糖尿病友の会を、当時の田代扶内科部長、田中弘行検査部長らの提案で、県下の他病院に先んじて組織しようと立ち上げられました。

当院は琵琶湖を展望する長等山の麓に位置しています。病院所在地にちなみ、響きの良い「ながら会」と命名し、指導医1名と会員数80名で会を発足しました。設立当時の総会は会員が講堂を埋めつくす盛会で、患者と医師、栄養士らが交流をはかりつつ、講演会、料理講習会、食品交換表に基づく会食、ハイキング等の毎月の行事を通し

て、食事療法、運動療法の実践に取り組みました。その後会員数は一旦減少しましたが、森田昂内科部長、岡本元純内科部長・副院長の指導の下、会員数は設立当初に近い数まで増加し、勉強会の定期的開催や、交歓会での親睦などを継続してきました。交歓会では栄養士が80kcal未満で摂取できるデザートを作成したり、糖尿病患者様に適した会食内容をホテルと相談して提供するなど、安心して楽しんでもらえるよう工夫をしています。

ここ数年は、日程調整の困難さや会員の高齢化などのため、会独自のイベントは縮小傾向で、新年会や勉強会などの交歓会が主な行事となっていますが、谷口孝夫糖尿病内分泌内科部長の指導の下、滋賀県糖尿病協会主催のウォーク

ラリーには積極的に参加し、他会の患者様やスタッフとも交流をはかっています。勉強会については、スタッフ会員に看護師、薬剤師、理学療法士等が加入したことで、座学だけではなくフットケアや運動を取り入れたもの等、体を動かしながら楽しく学ぶことができています。また、日本糖尿病協会発行の糖尿病の専門雑誌「さかえ」を配布し、知識の習得に活用していただいています。

コロナ禍の影響のため現在は勉強会や交歓会は控えていますが、糖尿病による合併症の発症や進行を抑えるために、患者同士が互いに励ましあい、情報交換できる場があることは有益と考えます。世情が落ち着けば徐々に活動を再開していく予定です。



入会のご案内

- 患者会名 ながら会
- 入会申込施設名 大津赤十字病院
- 担当部署 栄養課
- 電話番号 077-522-4131

ながら会は患者様、医師、栄養士、看護師、薬剤師や理学療法士と合わせて41名で活動し、主に講演会、勉強会、ウォークラリーなどの行事を行っています。勉強会などでは、患者様、職員との情報交換を行っています。



カトレア会

医療法人 大高医院

当院では院長が糖尿病学会専門医であることから糖尿病の患者様が多く通院されています。そして患者様からの“同じ悩みを持つもの同士の親睦を持ちたい”という提案を受けて、友の会を発足する事となりました。院長のお母様がカトレアを作っておられ、待合室にいつもカトレアが飾られていたのが「カトレア会」の名前の由来です。発足当初は料理教室や親睦を兼ねて温泉旅行での勉強会なども行っていました。現在は総会で前年度の活動報告や今後の計画について話し合った後、勉強会を開催しております。勉強会では最新の糖尿病薬、歯科との関わりなど、毎年さまざまな議題が取り上げられます。また勉強会の際には糖尿病に適した食事や間食など、実際に食べて、普段の食生活を振り返るきっかけにさせていただいております。



た。昼食勉強会ではまず会長より災害時の対応や心構えの話がありました。災害時に何を持って避難するのか、避難所の生活では何が必要なのか。一旦は避難したものの、避難所には糖尿病の薬など、命にかかわる薬の服用が必要な方も大勢おられ、そういう場合はお薬手帳があると、非常事態ということで医師の診察がなくても薬の支給をしてもらうことができます。この年のさかえ9月号にも「災害に備える」が特集されておりました。この機会に今一度災害についての備えを確認してみましょう、という呼びかけを致しました。

院長講演ではサルコペニアについての勉強を致しました。「サルコ」は筋肉、「ペニア」は減少を示す言葉です。診察で減量についての話をすることが多いですが、単純に体重を減らしたから良いということではなく、筋肉をつける事が大切であるという事をお話し、「指

この日の昼食は湯葉料理を中心とした料理でした。滋賀県産の大豆と滋賀県の綺麗な水で作った「比叡湯葉」。湯葉のお造り、湯葉の卵の花和え、湯葉のちりめんご飯(通常より量を減らして提供)、湯葉のお吸い物。加えて琵琶湖の名産である瀬田しじみを使った料理で、たんぱく質をしっかりとれるメニューでした。前述のサルコペニアにも繋がりますが、「筋肉をつける」ためにも良質なたんぱく質はしっかりと摂っていききたいとの学びでした。

最後に参加者同士でそれぞれ自分が気を付けている事や実践していること、相談、悩みなど、意見交換をいたしました。自分だけでは気づけない事、同じ悩みを抱えている者同士だからこそできる話も、この機会にすることができました。参加者からは「しっかり筋肉をつけながら減量したい」「災害時の事を考えるきっかけができた」「もっといろんな活動がしてみたい」といったお声を頂いています。

これからも、患者様とともに健康について楽しく学ぶ機会ができるようにしていきたいと思います。

打出糖友会

市立大津市民病院



大津市民病院は、明治32年開設、昭和39年に現在地に移転し、平成11年に本館棟を増改築、平成15年に地域医療支援病院としての承認を得ました。平成29年4月に「地方独立行政法人市立大津市民病院」に移行、現在に至っております。

当院の友の会である「大津市民病院糖尿病協会(通称:打出糖友会、以下通称で記載)」は、昭和46年9月25日に設立され、会員への協会誌の配付や総会、講演会、食事会、落語会、日帰り旅行等の活動を行ってまいりましたが、諸般の事情により、平成25年3月に一旦休会、41年余りの活動の幕を閉じました。

その後、平成29年12月1日付で活動が再開され、令和3年10月1日現在の会員数は、普通会员(患者会員)5人、特別会員(医療関係者会員)36人の計41人となっています。再開後の主な活動は、月刊「糖尿病ライフさかえ」の配付、糖尿病週間行事の「糖尿病110番」への参加、世界糖尿病デー行事の「ブルーライトアップ」や「関連ポスターの院内掲示」等です。

そのうち、「糖尿病110番」は、例年、病院本館2階の外来フロアを会場に、医師、看護師、理学療法士、管理栄養士のそれぞれが、年度毎のテーマに基づく講演を行うほか、レクリエーションや各種測

定(血糖、血管年齢、握力)、カードバイキングと栄養指導、各種展示(禁煙外来、栄養、療養)等を実施します。

また、「ブルーライトアップ」は、当院の正面玄関や屋上等の照明の色をブルーに変えて、期間中の夜間、ライトアップします。

今後も、本会の目的である「糖尿病の治療並びに予防に関する知識の普及と向上をはかり、併せて会員相互の親睦、福祉の増進をはかること」を通して、時代に見合う情報発信や交流の方法を取り入れ、市民の健康増進に寄与し、療養生活の支えとなる友の会として発展を目指します。



ブルーライトアップの様子

入会のご案内

- 患者会名 カトレア会
- 入会申込施設名 医療法人 大高医院
- 電話番号 077-524-3393

糖尿病患者様・ご家族・医師・看護師などの医療スタッフからなる会です。お互いにコミュニケーションをとりながら、より充実した生活を、自信をもって過ごしていただきたいと思います。コロナ禍において活動は減っておりますが、勉強会や親睦会、旅行や料理教室等も行っております。患者様同士の交流、地域のイベントに参加したいという方は是非ご入会ください。月刊誌「さかえ」もお渡ししています。入会金2,000円、年会費2,000円(初年度無料)。

入会のご案内

- 患者会名 大津市民病院糖尿病協会(通称:打出糖友会)
- 入会申込施設名 地方独立行政法人 市立大津市民病院 本館2階 地域医療連携室
- 担当部署 地方独立行政法人 市立大津市民病院 栄養部
- 電話番号 077-522-4607(代表)

当会は、患者様とご家族、医療スタッフで構成されており、糖尿病と向き合い、豊かで充実した生活を送るための取り組みを行っています。年会費は3,600円で、毎月、月刊「糖尿病ライフさかえ」を配付しています。

瀬田サルビア会

医療法人社団 瀬田クリニック



平成7年7月に発足した瀬田サルビア会も今年で26年を迎えました。瀬田サルビア会の名前は7月に咲くサルビアの花から名付けられています。

平成8年1月、瀬田サルビア会発足時の顧問で滋賀医科大学名誉教授であられました繫田幸男先生のご講演と食事会という形で第一回の交流会が始まりました。その後、療養体験の発表や健康推進委員さんのご協力を頂き調理実習と試食会など活動の内容が広がっていき、平成17年の10周年記念日には記念行事として、地域の方々を招いて「生活習慣病市民フォーラム」を盛大に開催できました。

平成9年にはサルビア新聞の発刊が始まり、年に2回発行されました。医師からの糖尿病に関する

医学的な情報はもちろん会員の皆様の趣味の写真、短歌、絵などに加えスタッフからの豆知識なども掲載されています。

平成10年からは、秋のバス旅行が始まりました。毎年恒例となり楽しみにされている行事となっています。ウォーキングを兼ねた紅葉がり、お城の散策などお喋りを楽しみながら歩いた後は、美味しい昼食をいただき最後は先生のご講演と盛り沢山の内容で参加者同士の親睦を深める機会であり、仲間づくりと情報交換の場となっています。

現在は3代目の会長のもと春の勉強会、秋のバス旅行、滋賀県糖尿病協会主催のウォークラリーに参加などの活動を続けています。勉強会ではバイキング方式の食事

会や、自己血糖測定の実験、フットケア指導士の指導のもと実際に爪切りをするなどの体験型の勉強会を行いました。また、理学療法士や管理栄養士の先生方を講師に招いた勉強会を開催し日々の生活に役立つ情報を学びました。

滋賀県糖尿病協会ウォークラリーは他の患者会の皆様と出会う場であり楽しみにされています。

しかし最近は会員の高齢化とコロナ感染症の流行による活動制限のため今までのような活動が出来ない状況にあり、このような状況下での活動を模索検討しており、今後の課題となっています。



入会のご案内

- 患者会名 瀬田サルビア会
- 入会申込施設名 医療法人社団 瀬田クリニック
- 担当部署 内科外来
- 電話番号 077-545-3945

瀬田サルビア会では主に春の勉強会、秋のバス旅行、ウォークラリーへの参加などの活動を行っています。誰でもお気軽に参加出来ます。会員募集中です。

月輪会

滋賀医科大学医学部附属病院

月輪会は、滋賀医科大学附属病院に通院されている糖尿病患者さんとその家族、医師・看護師・栄養管理士の医療スタッフが協力して会を運営しています。

糖尿病と長く・楽しく付き合っていくためには、正しい知識を身に付け、患者さん一人ひとりにあった食事・運動療法、薬物療法を選択することは重要ですが、糖尿病がおよぼす心理的な負担を軽減するメンタルヘルスケアのサポートも重要といえます。

“月輪会”では 会員同士(患者さん・家族、医療スタッフ)で様々な活動を通して情報交換を行いながら親睦を深め、心身ともにバランスのとれた健康づくりを目指して活動をしています。



入会のご案内

- 患者会名 月輪会
- 入会申込施設名 滋賀医科大学
- 担当部署 糖尿病内分泌・腎臓内科
- 電話番号 077-548-2223

歩こう会や食事会での患者さん同士や医療スタッフとの交流活動、月輪会が主催する勉強会を通じて、糖尿病に関する知識を学び、自分らしい生活スタイルと一緒に見つけていきたいと思います。是非入会をお待ちしております。

月輪会 活動の基本理念

つづけよう
きそくたしい生活と
のんびりと散歩
わかちあおう
かいいいさんと
いっしょに

一人ひとりがつながると
みんなの大きな“エッセンス”になる



栄養管理師監修の特製弁当

主な活動内容

- 患者さんと医療スタッフが催す独自の勉強会、歩く会 & 食事会の開催
- 患者さん・家族同士の親睦会の開催
- 月刊誌「糖尿病ライフさかえ」の配布
- 「糖尿病ライフさかえ」を資料に使用した勉強会の開催
- 滋賀県糖尿病協会が主催するウォークラリーへの参加



滋賀さざなみ会

滋賀県立総合病院

滋賀県糖尿病協会創立50周年おめでとうございます。2021年はインスリン発見からちょうど100周年であり、特に記念すべき年になりました。

本会は1984年3月に県内では、3番目の糖尿病友の会として滋賀県立総合病院(前身は滋賀県立成人病センター)に設立されました。会の名称も、血糖の変動が琵琶湖の“さざなみ”のように穏やかになることを願ってつけられた名称です。余談ですが、当院は1980年に設立されており、滋賀県糖尿病協会とはほぼ同じ時を刻んできたようです。

古い資料を紐解きますと、設立当初より、糖尿病教室の開催、11月の糖尿病週間に院外講師を招いての特別講演会、歩こう会、糖尿病食の試食会等を定期的に開催し

てきたようです。ここ2年間は、新型コロナウイルス流行のため、残念ながら開催を見合わせております。この原稿を執筆中の2021年11月現在は、第5波も沈静化してきており、次年度以降は各種行事の再開をしたいと思います。

ここ10年以内の比較的最近の行事として特筆すべきものとしては、2014年に開催した30周年記念の講演会です。設立当時に医長をされていた津田謹輔先生(帝塚山学院大学学長)と河野茂夫先生(京都医療センター・糖尿病センター長)をお招きして、それぞれ食事療法と糖尿病合併症に関するご講演をしていただき、大盛況でした。それ以外の年にも八田告先生、神内謙至先生、谷口孝夫先生など、滋賀県ゆかりの先生方に記念講演会の講師を担当していただきました。

当会は滋賀県糖尿病協会の活動にも積極的に参加し、ウォークラリーには第1回の時から欠かさず参加し、日本糖尿病協会の糖尿病予防キャンペーンにも参加しました。2018年に神戸で開催された第54回の近畿地方会患者体験談も、青木昭次会長が滋賀支部を代表として発表しました。

糖尿病の薬物治療の進歩は素晴らしいものですが、治療の基本はやはり生活習慣の改善にあることは紛れもない事実です。当会も患者さんと医療スタッフのチームとして活動を継続し、滋賀県糖尿病協会とともに歩み続けたいと思っています。



入会のご案内

- 患者会名 滋賀さざなみ会 (略称さざなみ会)
- 入会申込施設名 滋賀県立総合病院
- 担当部署 糖尿病・内分泌内科
- 電話番号 077-582-5031

1984年に設立されました。会の名称も、血糖の変動が琵琶湖のさざなみのように穏やかになることを願ってつけられました。新型コロナウイルス感染が落ち着けば、歩こう会、食事会等の再開をする予定です。

甲賀会

公立甲賀病院

甲賀会は、糖尿病入院後や外来通院患者さん同士が、親睦を深め、情報交換し、お互いの悩みの解決と療養生活向上を図るべく、1992年に発足しました。現在会員は約50名で、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士も参加しています。

毎年春には総会と糖尿病に関する講演会を行い、秋には嵐山や名古屋方面へ楽しい観光旅行を開催していました。しかし甲賀会20周年となる2011-14年頃には、発足当初の中心メンバーも参加が難しくなり、観光旅行ができない時期が続きました。スタッフも頭を悩まし、できるだけ多くの方が気軽に参加できるよう、バイキング形式の食事会、クイズ大会、グランドゴルフ大会などを企画しました。また春の講演会を2015年から会員以外にも一般公開したところ、多数の参加をいただき、以降も院

内行事として定着しました。

ちょうどその頃、他の患者会も高齢化に伴い会員数が減り、交流を深めるイベントの企画が難しくなっていました。そこで滋賀県糖尿病協会のご尽力で、2015年に滋賀県初となる患者会合同での糖尿病ウォークラリーが彦根で開催されました。このおかげで一時的に減少していた会員数も増えて、2017年10月には当院が「第3回滋賀県糖尿病ウォークラリー」「糖尿病予防キャンペーン西日本地区in滋賀」を信楽町で主催しました。あいにくの雨天でしたが、254名の方々とウォークラリーを楽しみ、午後の講演会には会場が満席となる約400名に参加いただきました。以降もウォークラリーには毎年約30名、県内No.1の参加者数を誇り、第1～5回に皆勤の4名には甲賀会から表彰状をお渡ししました。改めて協会の皆様には感謝の意を申

上げます。

月刊糖尿病ライフ「さかえ」には、予防キャンペーンの様子も大きく紹介され、読者のひろば、糖尿病川柳、フォトコンテストなどにも甲賀会から多数採用され、会員の励みにもなっています。また糖尿病優良模範会員(80歳以上・会員歴20年以上)に、2019年には3名も表彰されました。さらに日本糖尿病協会近畿地方会で2013年・19年に甲賀会会員が滋賀県代表として体験談を発表するなど、まさに「甲賀から全国へ」情報発信しています。

ここ2年はコロナ禍で十分な活動ができていませんが、糖尿病に関するトピック、スタッフや会員の自己紹介・寄稿などを書いたレターを会員に送り、紙面上で交流を継続しています。今年で30周年を迎えた甲賀会、これからも日々活動に取り組んでいきたいと思



入会のご案内

- 患者会名 甲賀会
- 入会申込施設名 公立甲賀病院
- 担当部署 薬剤部 林
- 電話番号 0748-62-0234

糖尿病患者さんご家族、糖尿病に関心のある方ならどなたでも大歓迎！活動内容は、講演会、食事会、ウォークラリー、バス旅行、川柳コンテストなど、とても楽しいですよ！スタッフも参加しています、ぜひお気軽にどうぞ。

よし笛糖友会

医療法人社団 久我内科医院



当院の糖尿病患者会は平成10年より、糖尿病教室を通じて、患者さん相互の交流を目的に始まりました。当初は講義と意見交換(実は雑談)を2時間ほど医院待合室で開催していました。が、回を重ねるごとに新年会やお花見会などのお楽しみの行事が増えていき、現在では年間10回の教室のうち、7回が勉強会、3回がお食事会というのが定番となっています。

教室は第一木曜日の午後2時間の開催で、平均5、6名の患者さんが参加されます。

前半の1時間は雑誌「さかえ」の特集記事からテーマをいただき、糖尿病についての正しい知識や最新の情報をお伝えしています。後

半の1時間は体を動かします。「さかえ」に載っている運動のススメを実際に行ってみたり、外に出てウォーキングをしたりします。

この患者会も始まってから20年余り経過し、患者さんも高齢化し、脱落していく方も少なくありません。最近では参加者が1名のみのこともありましたが、継続していくことが重要と考え、今後は若い世代の方にも参加していただくようにお声掛けをしていきたいと思っています。

2021年活動内容

- 1月 新年会
ケーキ「モンブラン」でお茶会
- 2月 休会(コロナ感染拡大のため)
- 3月 「新型コロナウイルス」の話
免疫を高める方法、食べ方
いきいき百歳体操
- 4月 お花見会
「スイーツコレクション」お茶会
桜の公園10周ウォーキング
- 5月 運動療法おさらい
室内エクササイズ
- 6月 「コロナワクチン」の話
スローステップ体力テスト
- 7月 納涼会
糖尿病クイズ大会
- 8月 休会
- 9月 休会(コロナ第5波のため)
- 10月 「経口補水液」の話
「コロナワクチン3回目接種」の話
ラジオ体操、ウォーキング
- 11月 ミニウォークラリー 約4500歩
- 12月 お休み



入会のご案内

- 患者会名 よし笛糖友会
- 入会申込施設名 医療法人社団 久我内科医院
- 電話番号 0748-33-2680

糖尿病月刊誌「さかえ」をテキストと一緒に学んだり、勉強したりしてみませんか？



ゆきの会

医療法人社団 弓削メディカルクリニック



患者さん同士や医師、看護師、管理栄養士との交流を通じて糖尿病のことをよく知り、日常生活において血糖を管理するための工夫を相談する場を設けることを目的とし、雨森院長が弓削メディカルクリニック開所前の竜王町国民健康保険診療所弓削出張所開所当初の25年前に、竜王にある雪野山をイメージして「ゆきの会」を設立しました。

これまでに、お花見会、日帰り旅行、ウォークラリー、糖尿病教室、試食会など様々な行事やイベントを開催してきました。年々縮小傾向にありますが、近年は糖尿病教室年4回開催を続けています。私たちスタッフは、こういった活動を通して、患者さんと親しくなれることに喜びを感じています。受診時には些細なことでも悩みを話して下さるようになり、私達スタッフも患者様と共感し共に考え、解決への糸口を見出すための支援を行ってきました。

当院では「ゆきの会」に入会されていない方でも、糖尿病教室に関心のある方は参加していただけます。糖尿病教室参加後に、入会される方もおられます。

〈糖尿病教室の流れ〉

【院長から挨拶】

楽しく学んで頂き、そして楽しく療養してもらえたら…という思いで挨拶。

【医師による講義】

グループディスカッション形式で〇×クイズや4択問題など糖尿病に関する問題をゲームとして取り入れ「糖尿病とはどんな病気?」「インスリンはどこから分泌される?」など皆で考えて答えを出し合いました。その中でも「腎臓だよ」と自信満々な70代男性と「膵臓だと思う」と不安げな20代女性が同じグループで相談し合っていました。皆さん笑顔で学ばれてる姿が印象的でした。また「フットケアを学びたい」という声に応じ、フットケアに関する講義後、看護師が足チェックを行い、どこを見たら良いか毎日のケアの方法をお伝えしました。

【ラジオ体操】

「ラジオ体操久しぶりー」「毎日してるよ」など話ながら患者様の出身地の「京都弁」や「熊本弁」などユーモアを交えた楽曲に合わせて、座位・立位、ご自身にあった体位で運動しました。

【管理栄養士の話】

いくつかの食品サンプルの中から、ご自身の3食の献立を立ててもらいました。炭水化物に偏りのある方、野菜不足の方が多くおられました。そのため、偏りを改め栄養バランスのとれた食事を摂るコツを学びました。主食・主菜・副菜2種×3回+牛乳・果物と覚えていただきました。「スーパーのカット済み野菜でも良いですか?」「野菜はジュースでも良いですか?」など皆さん熱心に質問されていました。

【終わりの挨拶】

アンケート記入後、サンプルで頂いたお土産(低GIスイーツなど)をお渡しし、解散。



今後も「参加して良かった。元気をもらった。」「参加者やスタッフとさらに親しくなれた。」と思っていただける会にしていきたいと思っています。

入会のご案内

- 患者会名 ゆきの会
- 入会申込施設名 弓削メディカルクリニック
- 電話番号 0748-57-1141

「ゆきの会」は、4月、7月、10月、1月(第4土曜日)に糖尿病教室を開催しています。毎月「さかえ」と共に、健康情報を掲載したお便りをお渡ししています。楽しく学んで楽しく療養しましょう。



いきいき会

医療法人 榎田医院

例年は、年度頭の総会、春のバス遠足、ウォーキングラリー、秋のバス遠足、講演会への参加等の行事を行っていました。本年度はコロナ禍の渦中であり、高齢者中心の我が会としては、特に注意を必要とする為、残念ながら本年度頭の役員会以外、行事を執り行う事を中止致しました。

・5/21「役員会」会長、及び、理事数名。(ソーシャルディスタンスに注意し、検温・消毒、マスク装着の上、開催)
議題:①会長選出。②収支報告。③活動計画。④東近江市内の三図書館(永源寺、八日市、能登川)へ「さかえ」寄贈。

以上が本年度の活動になります。



- 患者会名 いきいき会
- 入会申込施設名 医療法人 榎田医院
- 担当部署 いきいき会事務局
- 電話番号 0748-27-0062

各種の勉強会やお楽しみに皆で参加できます。常連さん同士でお付き合いできます。いきいき会を通じて色々な学習会にお誘いしています。そして、もっと沢山の通院中の方々に来て頂けると良いと思います。特に若い方、お元気な方、おいでください。一生に1回しか聞けないお話がいっぱいあります。

彦根みずうみの会

彦根市立病院



彦根市立病院では2014年3月に患者会を発足し、現在は患者さん18名、スタッフ26名の計44名が入会しています(2021年10月時点)。スタッフは、医師、看護師、理学療法士、歯科衛生士、臨床検査技師、薬剤師、管理栄養士などです。現在はコロナ禍にあり活動を自粛していますが、例年、ウォークラリーの参加に加えて、料理教室や日帰り旅行を開催してきました。

料理教室では、講師の先生をお招きして、毎回テーマを決めて調理実習を行います。参加者は、普段料理をしない方から主婦の方まで様々ですが、講師の先生からポイントを教わりながら、班ごとに協力して調理を行います。出来上がった料理は、血糖測定後に昼食としていただきます。

2019年度は炊飯器でパエリア風ごはん、キャベツたっぷり揚げないメンチカツなど、毎回野菜たっ

ぷりのヘルシーな料理ばかりです。講師の先生には、アイデアいっぱいのレシピを教えていただく上に、毎回試作から下準備まで協力いただき、大変感謝しております。

日帰り旅行は、近くは長浜市から遠くは京都市内まで、電車やバスを使って出掛けました。

2017年度は、長浜市内のホテルでランチをいただき、食後の運動を兼ねて黒壁スクエアを散策しました。ランチは、患者さんに安心して召し上がっていただけるように、ホテルの方と事前に打ち合わせをして、エネルギーや食塩を控えて特別に作っていただきました。美味しいのはもちろんのこと、見た目も華やかで、とても満足感のある食事を用意していただき、ホテルの方々のご協力があったからこそ企画でした。

2018年度は、ケーブルカーに乗って比叡山に登りました。精進

料理をいただいた後、紅葉で色づく延暦寺を参拝しました。2019年には、京都祇園花月で吉本新喜劇を鑑賞しました。笑うことは血糖管理に大切だと言われていますが、何より臨場感のある舞台を間近に観ることができ、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

日帰り旅行も料理教室も、バランスのよい食事や、カロリーを抑えた食事など、食事について改めて考えるきっかけとして良い機会だと思いますが、一番大切にしていることは、患者さん同士の交流の場として活用していただくことです。日頃の療養生活について、お互いに情報交換をすることで、自分だけじゃないんだと励まされたり、新たな療養のヒントを得ることもできるのではないのでしょうか。今後も、当院スタッフで協力して、患者さんの療養生活を応援していきたいと思っています。



- 患者会名 彦根みずうみの会
- 入会申込施設名 彦根市立病院
- 担当部署 栄養治療室
- 電話番号 0749-22-6340(栄養治療室直通)

日頃の療養生活でご不安や疑問はありませんか。彦根市立病院では、料理教室や日帰り旅行などのイベントを開催してきました。患者さんやご家族の方も大歓迎ですので、入会をご希望の方はお気軽にお問い合わせください。

彦根みずうみの会
マスコットキャラクター
あゆむくん



滋賀県医師会糖尿病実態調査の取り組みについて

滋賀医科大学 内科学講座（糖尿病内分泌・腎臓内科）
／医学・看護学教育センター

宮澤伊都子

滋賀県医師会では、糖尿病診療の重要性に注目し、2000年にはじめて県内の全医療機関に対して、通院している糖尿病患者さんの治療方法や血糖の管理状況をアンケート調査いたしました。以後、6年毎に調査を行い、2018年には第4回目の調査を行いました。本調査の特徴は大規模、かつ、長期間にわたっている

点、地域の診療所や医院も、糖尿病専門医の多い病院も含まれている調査だという点です。

本調査にご登録いただいた患者数は2000年18,589人、2006年19,039人、2012年24,243人、2018年26,651人でした。

最新の第4回調査の結果を一部、ご紹介いたします。

高齢者糖尿病が増えています

患者さんの平均年齢は2000年では男性63.4歳、女性66.6歳でしたが、2018年では男性67.0歳、女性69.3歳でした。ご存じのとおり、我が国では急速に高齢社会になりましたが、糖尿病患者さんにおいても高齢化を認めていました。

血糖のコントロールは良くなっています

血糖コントロールのめやすとなるヘモグロビンA1c（HbA1c）値は現在の標準値に換算すると、2000年では平均7.3%でしたが、2018年には7.1%に改善しました。

詳しく見ると右上のグラフのようになっていました。特にHbA1cが8%以上の方は、改善に向けて取り組みましょう。（図1）

糖尿病の治療方法

糖尿病の治療は内服薬で治療されている方が最も多く、60%程度でした。インスリンやGLP-1といった注射薬の使用は全体の25%程度でした。（図2）

図1 血糖コントロールの状況（HbA1c値）

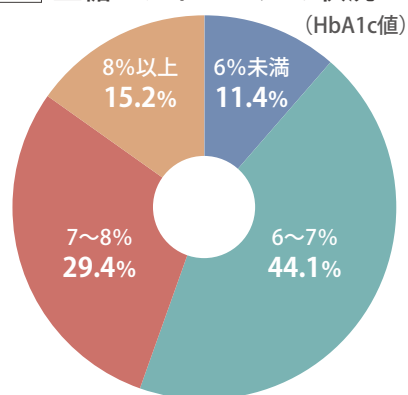
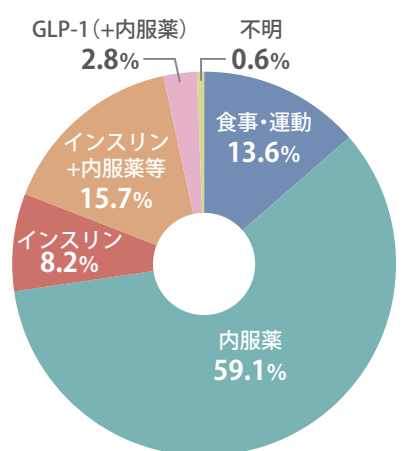


図2 糖尿病の治療方法



肥満者の割合が増加

糖尿病患者さんの中で、肥満（体格指数BMI25kg/m²以上）の方が増えています。肥満者の割合は2000年では全体の32.0%でしたが、2018年では44.1%となっていました。

特に若い方で肥満者が多く、40歳未満、40代、50代では50%以上が肥満者でした。（図3）

年に1回は眼科受診を

右下のグラフの眼底検査は糖尿病網膜症の検査、アルブミン尿検査と尿検査は糖尿病性腎症の検査です。

グラフはこれらの検査を年に1回以上受けた人の割合を示しています。

糖尿病網膜症は初期の段階では自覚症状がないので、何も症状がなくても、年に1回は眼科を受診し、眼底検査を受けて下さい。

また、糖尿病性腎症から透析に至る人を減らすため、アルブミン尿検査や尿検査も受けて下さい。（図4）

定期的な歯科受診もお勧めしています

糖尿病があると歯周病が進行しやすいことがわかっています。

歯科の受診状況をお尋ねしたところ、年に1回以上歯科を受診している人は24.4%と低い割合でした。

糖尿病のある方は、眼科だけでなく、歯科の受診もお勧めしています。

図3 糖尿病患者における肥満者の割合 年齢階級別

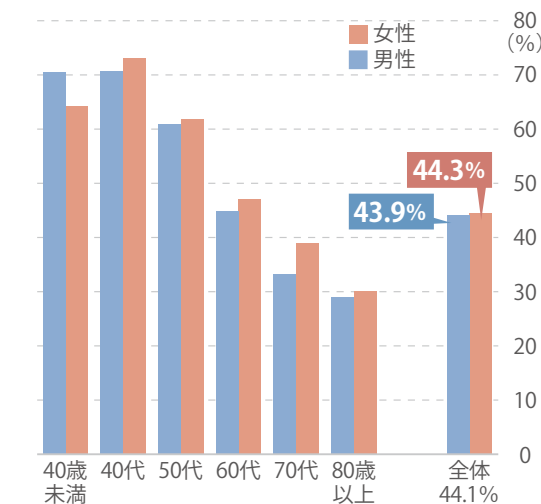
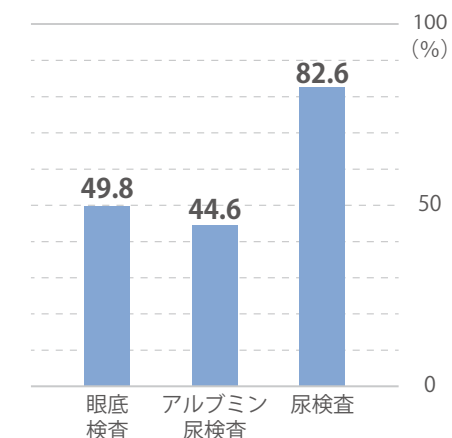


図4 糖尿病の合併症の検査率



糖尿病連携手帳も
ご活用下さい！





Withコロナ時代の糖尿病管理

彦根市立病院 糖尿病代謝内科 主任部長 黒江 彰

2020年初頭から広がった新型コロナウイルス(以下コロナと記載)感染症が世界を脅かし、私達の生活を一変させてしまいました。糖尿病患者さんからも、「外を散歩するのが怖い」「今まで通ったジムへ行きづらい」「家にこもる日が多い」とつい間食、夜食を摂ってしまう」という訴えを聞くようになり、血糖コントロールが悪化する人もたくさんいました。

糖尿病だとコロナにかかりやすいという証拠はありませんが、いったんかかると死亡率が増えるというデータは出ています。一方で適切な血糖管理を行えば死亡率を一般の患者さんより低くすることができることも示されています。

そのため私達医療スタッフにとっても入院したコロナ患者さんの血糖管理はかなり厳格に行うようになっています。呼吸状態の悪化した患者さんへの治療にステロイド(デキサメタゾン)を用いることがあり、それによる血糖悪化への対応も私達糖尿病スタッフの役割です。

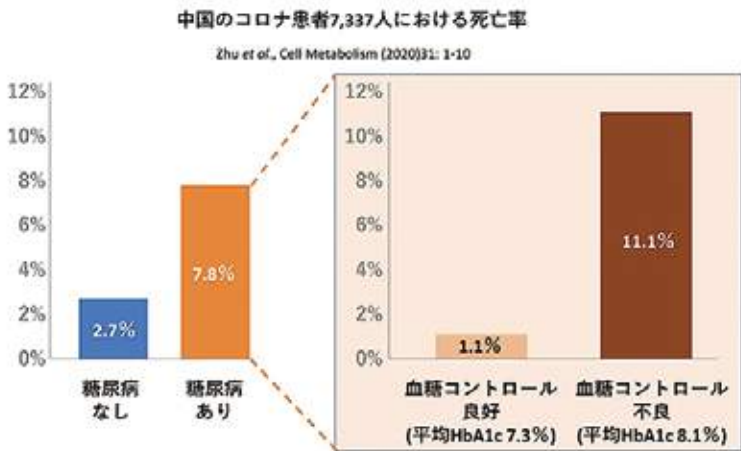
コロナで入院した後に発熱と共に嘔気や嘔吐で食事が摂れない人も多く、シックデイと呼ばれるこのような患者さんへの治療はインスリンが中心となります。当院でも数人の糖尿病患者さんがコロナに感染しシックデイになりましたが、幸い血糖管理とコロナの治療がうまくいき元気に退院していただくことができました。

外来をしていると多くの患者さんから「糖尿病だけどワクチンを打ってもいいでしょうか」と尋ねられます。私たちは「糖尿病患者がコロナに感染してしまうと危険なので是非受けてください」と答えています。

ようやくワクチン接種が全国民に広がり、重症化する患者さんが少なくなってきました。また最近になって軽症のコロナ患者さんに対し点滴で治療する薬が緊急で認可されました。当院でも適応症例を選んで外来で点滴投与し成果を上げています。年内には内服のお薬も緊急で認可され国内で使われる予定となりました。

油断はできませんが、正しい知識で感染を予防しながら日常生活を取り戻していける日が近づきつつあるのかもしれません。私達も以前のようにみんなで集まって糖尿病に関する知識を共有していける日が訪れることを切に願っています。

新型コロナウイルス感染症における死亡率(中国)



- 糖尿病があっても罹患率は増えないが、死亡率は上昇する。
- ただし厳格に血糖管理をされた患者の死亡率は低くなる。

滋賀県糖尿病協会の歩み

緑字＝滋賀糖尿病療養指導士(CDE滋賀)

年 度		
昭和46年	1971年 9月	滋賀県糖尿病協会創立 事務局:大津市民病院
昭和48年～ 54年		第1回～第7回 糖尿病教室(昭和54年に発展的解消) 大津市役所
昭和55年～ 60年		第8回～第13回 糖尿病週間の集い 相談(血圧・検尿・食事指導)展示
昭和61年	1986年11月	日本糖尿病協会の指導により実行委員会結成 第14回 糖尿病予防のつどい 講演、相談、クイズ、コンピューター診断等
昭和62年～ 63年		第15回～第16回 糖尿病予防のつどい 講演、相談、クイズ、コンピューター診断等 第16回は県医師会百周年事業に合流
平成元年～ 5年		第17回～第21回 糖尿病予防のつどい 講演、相談、クイズ、コンピューター診断等 大津市健康フェスティバルに合流
平成6年	1994年	糖尿病予防のつどい(発展的解消)
平成19年	2007年 9月22日	糖尿病シンポジウムin滋賀 講演、パネルディスカッション、展示 栗東芸術文化会館さくら
平成23年	2011年	第22回 糖尿病予防のつどい 再開(主催:滋賀県糖尿病会) 皇子山体育館
平成24年	2012年	第23回 糖尿病予防のつどい 明日都大津
平成25年	2013年10月20日	第24回 糖尿病予防のつどい 明日都大津
平成26年	2014年 4月 1日	滋賀県糖尿病療養指導士認定委員会の創立(事務局:彦根市立病院)
	2014年 7月29日	事務局を彦根市立病院栄養治療室に設置
	2014年10月19日	第25回 糖尿病予防のつどい 明日都大津
	2014年11月22日	生活習慣病市民フォーラム「糖尿病と向き合う」 彦根市文化プラザ トーク座談会「糖尿病と上手に向き合うために」 ゲスト:ハイヒールリンゴ氏
	2014年12月21日	第1回 CDE滋賀認定講習会(湖東地区)
	2015年 1月17日	平成26年度 滋賀県糖尿病協会理事会
平成27年	2015年 4月 1日	HP開設
	2015年10月 3日	第1回 滋賀県糖尿病ウォークラリー(彦根市立病院) 滋賀県立大学
	2015年10月18日	第26回 糖尿病予防のつどい 明日都大津
	2015年11月14日	第51回 日本糖尿病協会近畿地方会 京都国際会議場 協会世話人:岡本元純先生
	2015年12月13日	第2回 CDE滋賀認定講習会(大津・湖西地区)
平成28年	2016年10月15日	第2回 滋賀県糖尿病ウォークラリー(滋賀県立成人病センター) 滋賀県立希望ヶ丘文化公園
	2016年10月16日	第27回 糖尿病予防のつどい 明日都大津
	2016年12月 4日	第3回 CDE滋賀認定講習会(東近江地区)
	2017年 4月 1日	CDE滋賀事務局を琵琶湖大橋病院に移管
平成29年	2017年10月15日	平成29年度 糖尿病予防キャンペーン西日本地区in滋賀& 第3回 滋賀県糖尿病ウォークラリー(公立甲賀病院) 滋賀県立陶芸の森
	2017年10月15日	第28回 糖尿病予防のつどい
	2017年12月 3日	平成29年度 理事会 第4回 CDE滋賀認定講習会(湖北地区)
平成30年	2018年10月20日	第4回 滋賀県糖尿病ウォークラリー(大津赤十字病院) なぎさ公園
	2018年12月 9日	平成30年度 理事会 第5回 CDE滋賀認定講習会(湖南地区)
	2019年 1月30日	啓発活動 Bリーグ ブルーサークルDAY(滋賀レイクスターズvsライジングゼファー福岡) ウカルちゃんアリーナ2階
平成31年 (令和元年)	2019年10月20日	第29回 糖尿病予防のつどい 明日都大津
	2019年11月 4日	第5回 滋賀県糖尿病ウォークラリー(長浜赤十字病院) 長浜文化芸術会館
	2019年11月14日	第13回「世界糖尿病デー」ブルーライトアップ シンボルライトアップ 彦根城
	2019年12月 8日	令和元年度 理事会 第6回 CDE滋賀認定講習会(甲賀地区・大津赤十字病院)
令和2年	2020年10月	第30回 糖尿病予防のつどい ※中止 ※新型コロナウイルス感染症 まん延のため
	2020年11月	第6回 滋賀県糖尿病ウォークラリー (草津総合病院 現:淡海医療センター) 矢橋帰帆島公園 ※延期
令和3年	2021年11月	世界糖尿病デー啓発ポスター作製・配布
	2021年12月 5日	第7回 CDE滋賀認定講習会(湖東地区・大津・湖南地区)



滋賀県糖尿病協会会則

(名 称)
第1条 本会は、「滋賀県糖尿病協会」と称する。
2 副称として「日本糖尿病協会滋賀県支部」を用いる。

(事務所)
第2条 本会の事務所は、滋賀県内に置く。

(目 的)
第3条 本会は、公益社団法人日本糖尿病協会と連携して、広く糖尿病に関する知識の普及啓発を行い、県民の健康増進に寄与するとともに、会員の資質の向上と交流を図ることを目的とする。

(事 業)
第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
1) 講演会、研修会、その他所要の教育活動
2) 会員相互の交流に関する事業
3) 公益社団法人日本糖尿病協会との連携
4) その他、本会の目的を達成するために必要な事業

(会 員)
第5条 本会の会員は、次の通りとする。
1) 正会員 滋賀県下の医療機関等を単位として組織され、本会に加入している団体(以下単位組織という)の会員
2) 賛助会員 糖尿病に関心を有し、本会の趣旨に賛同する個人又は団体で、本会の承認を得たもの
2 本会の会員になろうとする者は、所定に手続きにより入会するものとする。
3 本会の会員は、公益社団法人日本糖尿病協会に同時に入会することとする。

(入 会)
第6条 会員として入会しようとする者は、所定の手続きにより入会するものとする。
2 上記の入会の手続きは、併せて公益社団法人日本糖尿病協会の入会を兼ねるものとする。

(会 費)
第7条 会員は、一定の会費を納入するものとする。会費の額及び徴収の時期ならびに方法は、別にこれを定める。

(退 会)
第8条 本会の会員は、申し出て退会することができる。

(分 会)
第9条 本会の組織に分会を置き、第5条1)に定める滋賀県下の医療機関等を単位として組織され、本会に加入している団体を分会として取り扱う。

(役 員)
第10条 本会に、次の役員を置く。
1) 会長 1名
2) 副会長 若干名
3) 理事 若干名
4) 監事 2名
5) 顧問及び相談役 若干名
2)～5)の人選は会長の推薦によるものとする。会長の交代は理事会の承認を受けるものとする。
2 会長は、公益社団法人日本糖尿病協会の都道府県代表を務めるものとする。

(選出方法)
第11条 理事は、単位組織ごとに会員の中から選出する。
2 会長は、理事の中から互選によって選出する。
3 副会長は、理事の中から会長が指名し、理事会においてその承認を得るものとする。
4 監事は、会員の中から会長が委嘱し、理事会においてその承認を得るものとする。
5 顧問及び相談役は、理事会の議を経て、会長がこれを委嘱する。

(職 務)
第12条 会長は、本会の会務を総理し、本会を代表する。
2 副会長は、会長を補佐して、本会の会務を処理し、会長事故ある時は会長の職務を代行、または代理する。

3 理事は、理事会を構成し、会長を助けて本会の常務を行う。
4 監事は、本会の事業ならびに会計を監査し、これを理事会に報告する。また、理事会に出席して意見を述べることができる。

(理事会)
第13条 会長は、必要に応じて理事会を召集するものとする。
2 理事の1／3以上の要求がある場合には、理事会を召集することができる。
3 会長は、理事会の議長となる。
4 監事は、理事会において理事と同等の扱いを受ける。但し、議決権は有しない。

(議 決)
第14条 理事会は、理事の過半数の出席をもって成立し、出席理事の過半数の賛成をもって議決する。可否同数の場合は、議長がこれを決する。
2 会則の改廃、予算、決算、事業計画及び事業報告は、理事会の議決を経なければならない。

(任 期)
第15条 役員の任期は2年とする。但し、再任は妨げない。
2 役員に欠員が生じた場合は、補欠を選出、または選任する。補欠の任期は、前任者の残存期間とする。

(経 費)
第16条 本会の経費は、会費、寄付金、補助金及びその他の収入により支弁する。

(事業年度)
第17条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(細 則)
第18条 この会則に定めない事項ならびにこの会則の執行、または会の運営に関する細則は理事会でこれを定める。

(賛助会員)
付則1 賛助会員の会費(年会費)は、3万円/一口として入会年月日より1年ごとに収めるものとする。

(経過処置)
付則1 この会則発効時の各単位組織の会長ならびに副会長は、第10条に規定する理事とし、任期は会則の発効時より2年間とする。

(発 効)
付則2 この会則は、平成5年4月24日から執行する。

(所 在)
付則3 口座開設に伴い、所在地を明確にする必要があるため、平成16年4月1日現在、事務局を、滋賀県大津市本宮二丁目9番9号大津市民病院診療局栄養部内に置くことを明記する。

(事務所の変更)
付則4 平成26年7月29日事務局を滋賀県彦根市八坂町1882番地 彦根市立病院 栄養科・栄養治療室に変更する。

(会則の変更)
付則1 この会則発効時の各単位組織の会長ならびに副会長は、第10条に規定する理事とし、任期は会則の発効時より2年間とし、理事会の承認があれば再任を妨げない。
付則2 社団法人日本糖尿病協会の公益社団法人移行に伴い、社団法人日本糖尿病協会滋賀県支部会則を変更し、本会則は平成25年3月31日に改定する。
付則3 この会則は、平成27年5月1日に改定し執行する。

平成27年5月1日

役 員		
会 長	岡本 元純	大津赤十字志賀病院
副会長	矢野 秀樹	彦根市立病院
副会長	榊田昌之助	榊田医院
副会長	森田 善方	市立長浜病院
副会長	大高 剛	大高医院
副会長	大村 寧	公立甲賀病院
副会長	山本 泰三	滋賀県立総合病院
副会長	森野勝太郎	滋賀医科大学医学部附属病院
理 事	門田 文	瀬田クリニック
理 事	谷口 孝夫	大津赤十字病院
理 事	雨森 正記	弓削メディカルクリニック
理 事	久我 正文	久我内科医院
理 事	石井 通予	市立大津市民病院
理 事	関根 理	社会法人誠光会 淡海医療センター
理 事	田村 欣実	月輪会
理 事	久木 康裕	彦根みずうみの会
監 事	江川 克哉	長浜赤十字病院
監 事	黒江 彰	彦根市立病院
事務局	小野 由美	彦根市立病院
事務局	大橋佐智子	彦根市立病院

賛助会員	
株式会社ジェイジェイエフ (2015 年度)	
大喜産業株式会社 (2019 年度)	
株式会社ヘルスケア・システム研究所 (2019 年4月～継続)	
関西ベストフーズ株式会社 (2020 年4月～継続)	

編集後記

記念すべき「滋賀県糖尿病協会50周年のあゆみ」の編集に関わらせていただきましたことに感謝申し上げます。作業を通して以前勤務していました病院の患者会での食事バイキングや歩こう会などに参加したことをなつかしく思い出しました。また、お世話になった先生にもご連絡する機会をいただき本当にうれしく思いました。

内容は患者体験談、滋賀県糖尿病ウォークラリーの開催、CDE 滋賀の活動報告、各患者会の紹介から最新の滋賀県医師会糖尿病実態調査結果、コロナ時代の糖尿病管理と盛りだくさんの内容となりました。ご執筆いただいた皆様に感謝申し上げます。また、表紙の写真をご提供いただいた元彦根市立病院の小財郁男様にも御礼申し上げます。

本来ならば、各友の会(患者会)の方々と一緒に作業をさせていただきたかったのですが、コロナ禍のため、メールや電話でのやり取りで作成することになりました。編集にあたりましては、多くの方にご協力いただき本当にありがとうございました。滋賀県糖尿病協会が今後ますます発展いたしますようお願い申し上げます。

滋賀県糖尿病協会事務局 小野 由美

滋賀県糖尿病協会
50周年のあゆみ

発行日／令和 4 年 2 月
発行者／滋賀県糖尿病協会
事務局：彦根市立病院 栄養治療室内
〒522-8539 滋賀県彦根市八坂町1882
http://www.dmshiga.jp/
制作・印刷／株式会社ヤマブラ

※この記念誌の原稿は2021年11月～2022年1月に執筆したものです。ご了承ください。